青森市埋蔵文化財調査報告書 第104集

長溜池遺跡

発掘調査報告書

平成 21 年度

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書 第104集

長溜池遺跡

発掘調査報告書

平成 21 年度

青森市教育委員会

序

平成22年 3 月現在、青森市内の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は408ヶ所を数え、各種公共事業や民間土木工事に際しては、慎重を期すとともに記録保存を前提とした発掘調査が実施されております。

平成20年度および21年度に調査した長溜池遺跡は、青森市浪岡大字松枝字野尻、女鹿沢字平野に所在する縄文時代・平安時代の遺跡であり、野尻本線道路整備事業に併う発掘調査を実施しました。その結果、平安時代の竪穴遺構 2 基、土坑13基、小ピット 7 基、溝状遺構11条および土師器・縄文土器・近世陶磁器等が検出されました。

本書は、このたびの発掘調査成果をまとめたものであり、今後の埋蔵文化財保護ならびに調査・研究の一助になれば幸いです。

本書の刊行にあたり、関係機関および関係各位のご指導とご協力に深く感謝いたします。

平成22年 3 月

青森市教育委員会

教育長　月　永　良　彦

例　　言

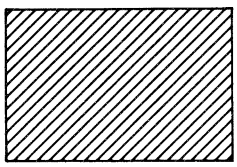
1．本書は、青森市教育委員会が発掘調査を実施した青森市浪岡大字松枝字野尻および女鹿沢字平野に所在する長溜池遺跡の発掘調査報告書である。
2．本書に記載される内容は、平成20年度および平成21年度に実施した野尻本線道路整備事業に係る発掘調査成果をまとめたものである。
3．本遺跡は、青森県埋蔵文化財包蔵地台帳に遺跡番号201－341として登録されている。
4．本書の執筆ならびに編集は、青森市教育委員会が行った。執筆分担は各文末に記した。
5．出土遺物および記録図面、写真関係資料は青森市教育委員会が保管している。
6．引用・参考文献は巻末にまとめた。
7．発掘調査および報告書の作成にあたって、次の各機関・各位からご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である。

青森県教育庁文化財保護課、青森市浪岡事務所都市整備課、青森市史編さん室、木村浩一、工藤清泰、神　康夫

凡　　例

1．挿図番号および表番号、写真図版番号は本書を通じて連続するものとし、「第○図」、「第○表」、「写真○」と表記した。
2．遺構の略称は、竪穴遺構＝ＳＩ、土坑＝ＳＫ、小ピット＝ＳＰ、溝状遺構＝ＳＤである。また、遺構内土坑＝ＳＫ（例：SI－01内SK１）、遺構内ピット＝Ｐｉｔ（例：SD－01内Pit１）とした。遺物実測図には括弧内に出土遺構あるいは出土グリッドを明記した。
3．図中で使用したアルファベットを用いた略称は、ロームブロック＝ＬＢである。
4．挿図の縮尺は各図毎に示した。また、写真図版の縮尺は統一していない。
5．遺物実測図・遺物写真図版の縮尺は、1/2である。なお、遺物写真図版には、個々に挿図（遺物実測図）の図版番号を付してある（例：10－１＝第10図１）。
6．土層の注記は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄1993）に準拠した。
7．図中で使用したスクリーントーンは、以下の通りである。なお、須恵器断面は黒ベタで示した。

地　山



目　　次

序
例言・凡例
目次
図表・写真目次
第Ⅰ章　調査の概要 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　調査要項 …… 1
　第3節　調査方法 …… 3
　第4節　調査経過 …… 3
第Ⅱ章　遺跡の概要 …… 5
　第1節　地理的・歴史的環境 …… 5
　第2節　基本層序 …… 7
第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物 …… 11
　第1節　竪穴遺構 …… 11
　第2節　土坑 …… 13
　第3節　小ピット …… 17
　第4節　溝状遺構 …… 19
　第5節　遺構外出土遺物 …… 27
まとめ …… 31
引用・参考文献 …… 32
写真図版 …… 34
報告書抄録

図表・写真目次

挿図

第１図　遺跡の位置 …… 2
第２図　調査区の位置 …… 4
第３図　周辺の遺跡 …… 6
第４図　基本層序 …… 7
第５図　グリッド設定図 …… 8
第６図　遺構配置図 …… 9
第７図　竪穴遺構 …… 12
第８図　土坑（１） …… 14
第９図　土坑（２） …… 16
第10図　小ピット …… 18
第11図　溝状遺構（１） …… 21
第12図　溝状遺構（２） …… 24
第13図　溝状遺構（３） …… 25
第14図　溝状遺構（４） …… 26
第15図　遺構内出土遺物 …… 28
第16図　遺構外出土遺物 …… 29

表

第１表　周辺の遺跡 …… 6
第２表　遺構内出土遺物観察一覧 …… 30
第３表　遺構外出土遺物観察一覧 …… 30

写真図版

写真１　検出遺構（１） …… 34
写真２　検出遺構（２） …… 35
写真３　検出遺構（３） …… 36
写真４　検出遺構（４） …… 37
写真５　検出遺構（５） …… 38
写真６　検出遺構（６） …… 39
写真７　検出遺構（７） …… 40
写真８　検出遺構（８） …… 41
写真９　検出遺構（９） …… 42
写真10　検出遺構(10) …… 43
写真11　出土遺物 …… 44

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

青森市浪岡事務所都市整備課（以下、都市整備課）は、青森市浪岡大字松枝字野尻および女鹿沢字平野に所在する野尻本線道路の拡幅工事を計画し、平成18年６月12日、青森市教育委員会文化財課（以下、文化財課）に「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」を提出した。遺跡地図と照合した結果、対象地が長溜池遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号201－341）に該当していたことから、文化財課は平成20年４月21日～４月25日の日程で確認調査を実施することとなった。開発予定地に42ヶ所のトレンチを設定し、遺構確認を行ったところ（調査面積117㎡）、４ヶ所のトレンチから５基の遺構プランを検出した（青森市教育委員会2009）。

確認調査の結果を受けて、都市整備課と再度協議し、平成20年９月１日～10月15日および平成21年７月30日～９月11日の日程で発掘調査を実施することとなった。

第２節　調査要項

１．調査の目的

道路改良工事に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図るとともに、地域における文化財の活用に資する。

２．遺跡名および所在地

長溜池遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号　201－341）

青森市浪岡大字松枝字野尻および女鹿沢字平野

３．発掘調査期間　平成20年９月１日～10月15日

平成21年７月30日～９月11日

４．調査面積　626㎡（平成20年度：429㎡、平成21年度：197㎡）

５．調査委託者　青森市浪岡事務所都市整備課

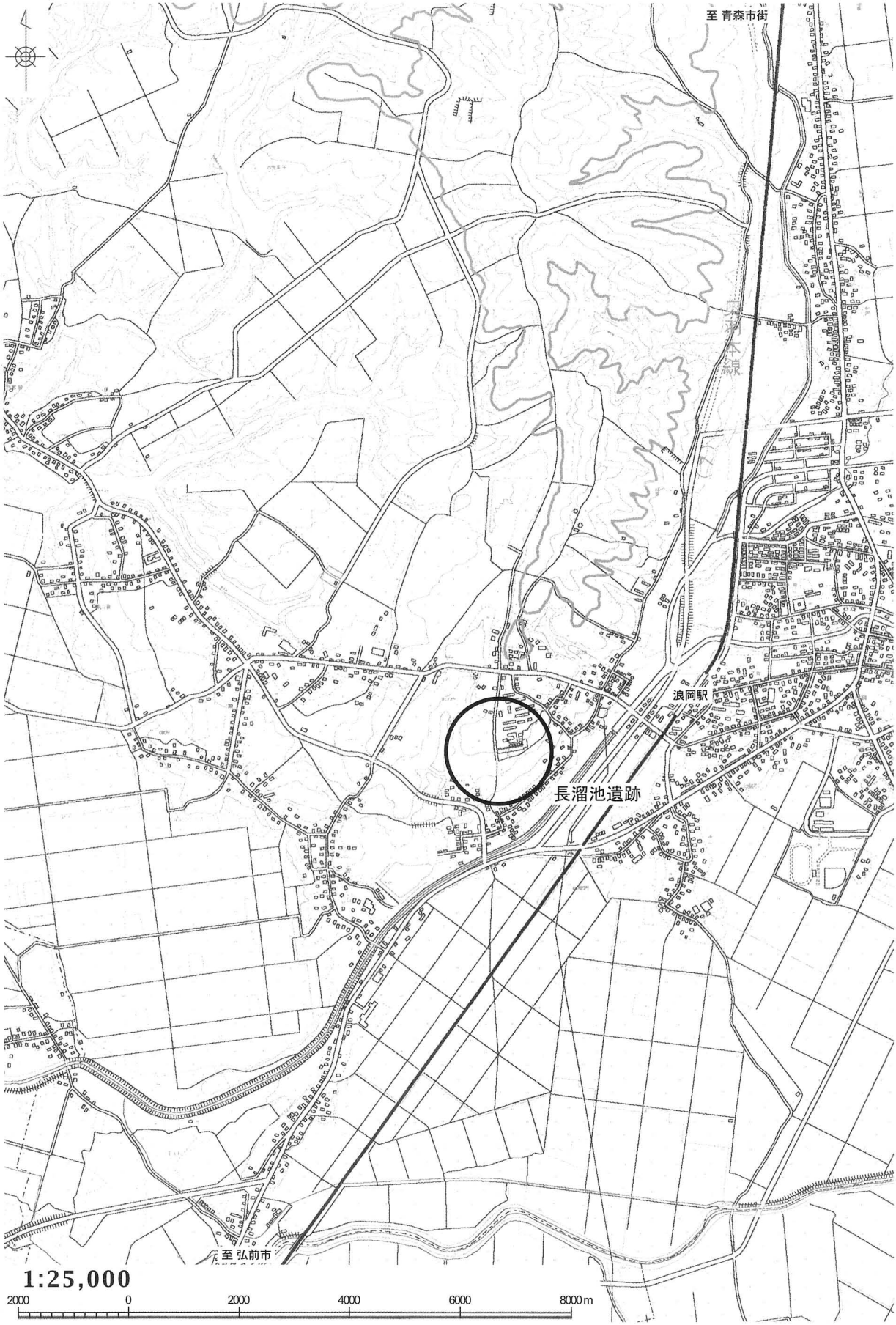
６．調査受託者　青森市教育委員会事務局文化財課

７．調査担当機関　青森市教育委員会事務局文化財課

８．調査指導機関　青森県教育庁文化財保護課

９．調査体制（平成20年度）　調査事務局　青森市教育委員会

教育長	角田詮二郎	文化財主事	児玉　大成（調整担当）
教育部長	古山　善猛	〃	設楽　政健（調査担当）
教育次長	今村　貴宏	主事	越谷美由紀（庶務担当）
参事・文化財課長事務取扱	遠藤　正夫	〃	竹ヶ原亜希（　〃　）
主幹	藤村　和人	埋蔵文化財調査員	野坂　知広
文化財主査	小野　貴之	調査補助員	葛西かおり・溝江由里子・安田武実
〃	木村　淳一	整理作業員	工藤るり子・柴田園子



第１図　遺跡の位置

10. 調査体制（平成21年度）　調査事務局　青森市教育委員会

教育長	月永　良彦	文化財主査	児玉　大成（調整担当）
教育部長	小林　順一	文化財主事	設楽　政健（調査担当）
教育次長	今村　貴宏	主事	高石　知世（庶務担当）
文化財専門監兼文化財課長	遠藤　正夫	〃	吹田　夕貴（　〃　）
主幹	上野富士子	〃	對馬　広将（　〃　）
文化財主査	小野　貴之	埋蔵文化財調査員	野坂　知広
〃	木村　淳一	調査補助員	葛西かおり・溝江由里子・安田　武実
		整理作業員	工藤るり子・柴田　園子

第３節　調査方法

調査区は、旧町道沿いにあたるため、ほぼ南北に細長い形状を呈している（第２図）。公共座標に基づいた任意の起点から、調査区全体が網羅されるように４×４ｍのグリッドを設定した（第５図）。グリッドの呼称は、東側に向かってＡ、Ｂ、Ｃ…の順にアルファベット、南側に向かって１、２、３…の順に算用数字を付し、両者の組み合わせで示した（例：Ａ－１グリッド）。測量原点は、付近に適当な基準点が存在しなかったため、国道７号沿いの水準点（標高22.6ｍ）より移動を行った。

発掘調査は、確認調査における遺構確認面（地山ローム層上面）まで重機で慎重に表土を剥ぎ取り、確認された遺構について順次精査していく方法をとった。遺構精査は、４分法および２分法を用いて断面図を作成し、平面図は簡易遣り方測量とトータルステーションを併用した。縮尺は原則として20分の１とし、写真は土層断面、完掘状況を中心に撮影し、デジタルカメラを使用した。

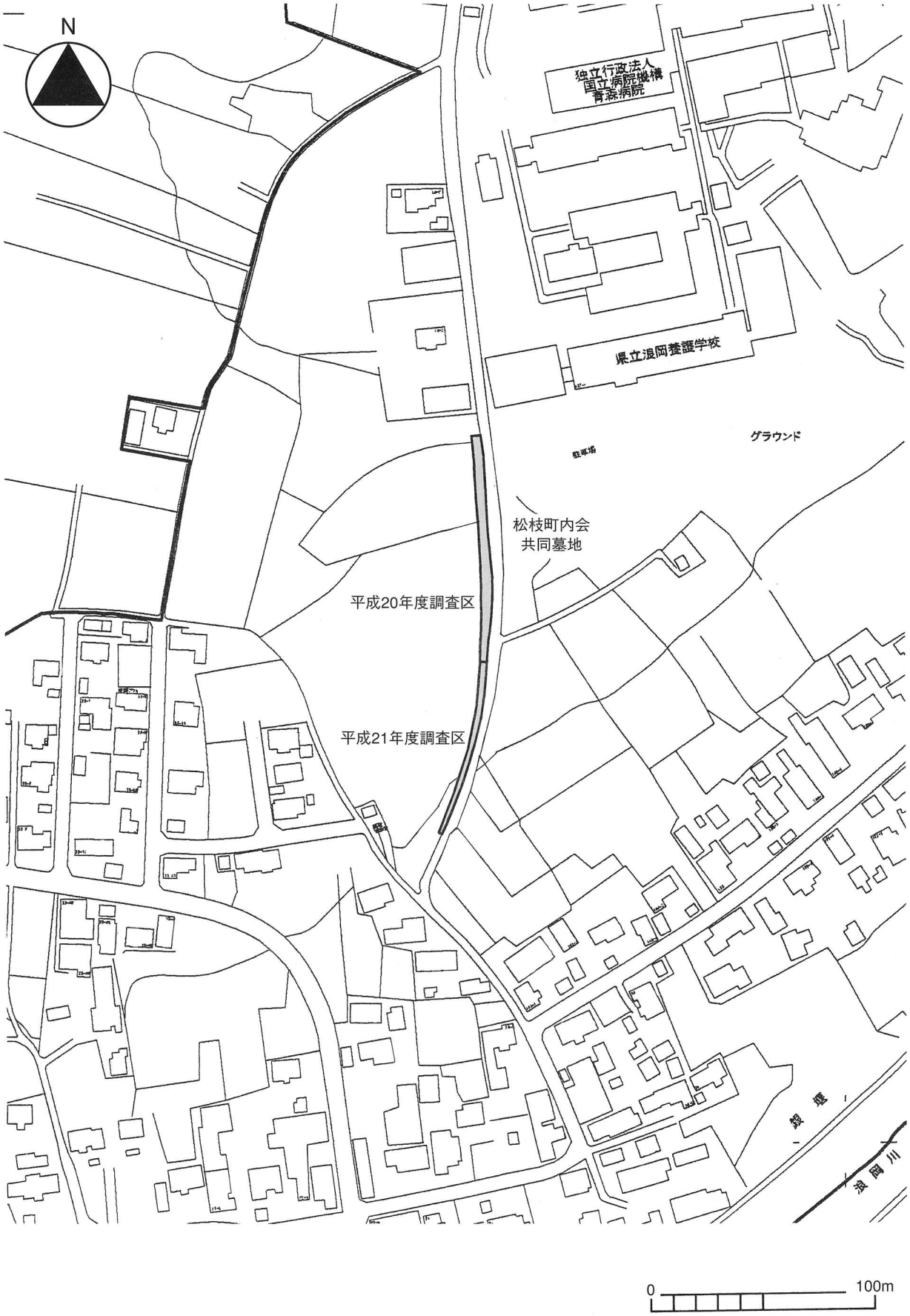
層位名は、基本層序を「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ…」の順にローマ数字、遺構覆土層序を「１、２、３…」の順に算用数字で表記し、別遺構との重複層序については「①、②、③…」など各種数字を併用した。出土遺物の取り上げは、原則として遺構単位、グリッド単位で行い、層位の分かるものについては注記を加えた。

第４節　調査経過

平成20年９月１日、発掘調査開始。機材搬入・プレハブ内の環境整備後、調査区北側より重機による遺構確認面までの掘削を行い、その後、鋤簾がけにより遺構確認を行った。調査区は南側に向かって緩やかに傾斜しており、一部、表土堆積が厚い箇所があった。竪穴遺構２基、土坑５基、小ピット４基、溝状遺構６条を検出し、調査区北側から順に遺構精査を実施した。10月15日に平成20年度の作業を終了し、機材・プレハブ等を撤収した。

平成21年７月30日、発掘調査再開。機材搬入・プレハブ内の環境整備後、前年度調査区の南側から重機による遺構確認面までの掘削を行い、その後、鋤簾がけにより遺構確認を行った。土坑８基、小ピット３基、溝状遺構５条を検出し、平成21年度調査区北側から順に遺構精査を実施した。９月11日にすべての作業を終了し、機材・プレハブ等を撤収した。

（設楽　政健）


N
独立行政法人
国立病院機構
青森病院
県立浪岡養護学校
ゲラウンド
駐車場
松枝町内会
共同墓地
平成20年度調査区
平成21年度調査区
浪岡川
0
100m

第２図　調査区の位置

第Ⅱ章　遺跡の概要

第１節　地理的・歴史的環境

長溜池遺跡は、青森県青森市浪岡大字松枝字野尻および女鹿沢字平野地内に所在し（第１図）、浪岡川と大釈迦川の合流地点右岸の低位段丘上、標高30～40m内外の緩斜面に占地する（第３図）。青森市浪岡地区（旧南津軽郡浪岡町）は、津軽平野の北東端に位置するが、北西部と東部に山地・丘陵地、南部に平野が広がる地勢を呈している。発見されている遺跡のほとんどが丘陵地・丘陵縁辺部に所在し、縄文時代および平安時代の集落遺跡がその主体を占める。また、微高丘陵上には中世城館が築城されることも珍しくない。現在、本遺跡のある前田野目台地南縁部は宅地・果樹園などに利用されており、十川・浪岡川・大釈迦川流域の低地では水田耕作が行われている。北方に梵珠山、東方に八甲田連峰、南西に岩木山を仰ぎ見る絶好の景観にあり、南方の平野部を一望することもできる。本遺跡の立地する標高30～40mの緩斜面は、大釈迦川に面する台地東側で狭く、十川に面する台地南西側で大きく開けている。特に、平野部に接する前田野目台地縁辺部は、遺跡の密集する地域として知られており、豊富な湧水に恵まれていることとも関係するのであろう。

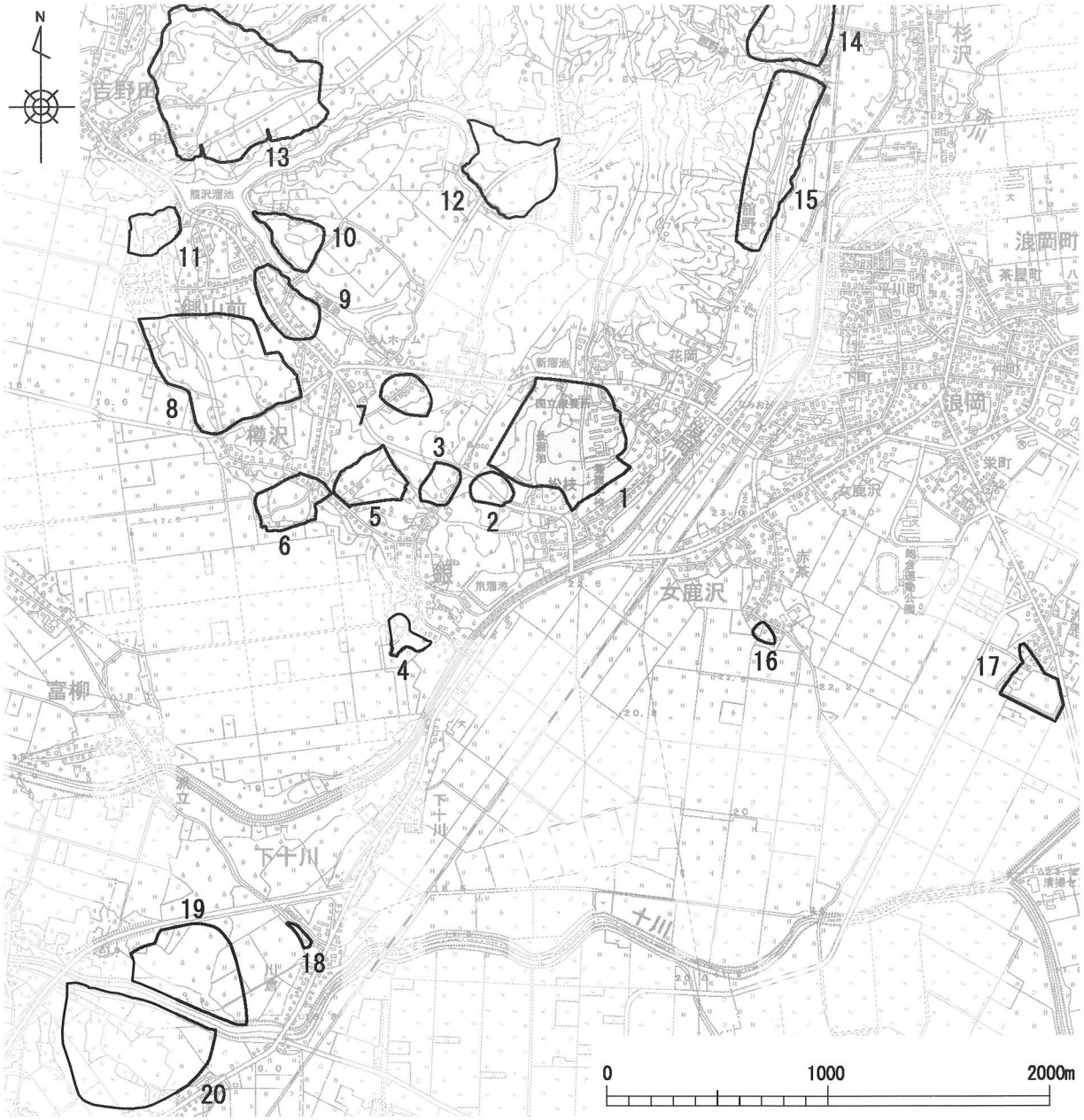
前田野目台地東縁部には野尻遺跡群の通称もある平安時代の集落遺跡が集中しており、国道７号浪岡バイパス建設工事に伴い調査された山本遺跡・野尻（１）遺跡・野尻（４）遺跡・野尻（２）遺跡・野尻（３）遺跡・高屋敷館遺跡・山元（１）遺跡・山元（２）遺跡・山元（３）遺跡からは、膨大な量の遺構・遺物が検出され、平安時代（９世紀～11世紀）を通じて集落が継続されていたことが判明した。また、国史跡に指定された高屋敷館遺跡からは10世紀～12世紀の環濠集落（防御性集落）が発見されている（青森県教育委員会1998ｂほか）。北西に約３kmほど離れた五所川原市東部の前田野目川支流域には、五所川原須恵器窯跡群が所在し、当地が古代津軽における一大中心地であったと想定される所以ともなっている。

本遺跡の占地する前田野目台地南縁部にも平安時代の遺跡が散在しており、本遺跡をはじめ杉田遺跡・大林遺跡・銀前田遺跡・神明宮遺跡・山神宮遺跡・樽沢村元遺跡・郷山前村元遺跡・上野遺跡・熊沢溜池遺跡・樽沢上野遺跡・中平遺跡などがある。発掘調査が実施された遺跡は少ないが、現在、リンゴ果樹園などに利用されている緩斜面上には、数多くの集落遺跡が埋蔵されているものと思われる。

今回の調査区は、本遺跡を南北に縦断する野尻本線道路沿いのリンゴ果樹園に所在し、調査区北端と南端の比高差は約９ｍである。平成12年度（2000）には、この道路を挟んで北側に隣接する浪岡養護学校の実習地整備事業に伴い青森県埋蔵文化財センターにより発掘調査が実施されている（青森県教育委員会2001）。出土遺物は僅少であったものの、平安時代（９世紀後葉～10世紀初頭）の所産と推定される円形周溝遺構７基、土坑２基が検出され、墓域であった可能性が指摘されている。また、近世・近代（18世紀前半以降）の土葬墓や石造仏（地蔵像）が検出されており、調査区に隣接する松枝町内会共同墓地に関連する遺構・遺物と思われる。墓地内には江戸時代の記年銘を持った墓碑も散見される。

平成20年度の調査に先立って実施された確認調査においても、トレンチ内からの出土遺物はなく、周辺から須恵器甕の小片が１点表採されたのみであった（青森市教育委員会2009）。しかし、北西方向に緩斜面を上がった畑地からは縄文土器（前期主体）が多く採集されており、遺跡の中心域はやはり斜面を上りきった丘陵平坦部にあるものと思われる。

（野坂　知広）



第３図　周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡

番号	遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	種　別	時　　代	文　　献
1	201-341	長溜池遺跡	青森市浪岡大字松枝字野尻	散布地・墳墓	縄文（中・晩）、平安	青森県教育委員会2001、青森市教育委員会2009
2	201-385	杉田遺跡	青森市浪岡大字銀字杉田	散布地	平安	
3	201-342	大林遺跡	青森市浪岡大字銀字杉田	散布地	平安	
4	201-411	銀前田遺跡	青森市浪岡大字銀字前田	散布地	平安	
5	201-339	神明宮遺跡	青森市浪岡大字銀字杉田	散布地・集落跡	縄文（前・晩）、平安	青森市教育委員会2007
6	201-340	山神宮遺跡	青森市浪岡大字樽沢字村元	散布地	縄文（晩）	青森市教育委員会2007
7	201-412	樽沢村元遺跡	青森市浪岡大字樽沢字村元	散布地	縄文、平安	
8	201-398	郷山前村元遺跡	青森市浪岡大字郷山前字村元	散布地	平安	
9	201-338	上野遺跡	青森市浪岡大字樽沢字村元	散布地	縄文（中・後）、平安	青森県教育委員会2008
10	201-336	熊沢溜池遺跡	青森市浪岡大字樽沢字村元	散布地	平安	
11	201-337	永原遺跡	青森市浪岡大字郷山前字永原	散布地	縄文（前・後）	
12	201-397	樽沢上野遺跡	青森市浪岡大字樽沢字上野	散布地	縄文、平安	
13	201-334	中平遺跡	青森市浪岡大字吉野田字平野	散布地	縄文（後）、平安	
14	201-391	杉沢山元（４）遺跡	青森市浪岡大字杉沢字山元	散布地	中世	
15	201-383	山元（３）遺跡	青森市浪岡大字杉沢字山元	散布地	縄文、平安	青森県教育委員会1994、青森市教育委員会2008ｂ
16	201-415	西増田遺跡	青森市浪岡大字女鹿沢字西増田	散布地	縄文、平安	
17	201-410	女鹿沢遺跡	青森市浪岡大字女鹿沢字早稲田	散布地	平安	
18	201-416	大沼袋遺跡	青森市浪岡大字下十川字大沼袋	散布地	平安	
19	201-343	大沼遺跡	青森市浪岡大字川倉字大沼袋	散布地	平安	浪岡町教育委員会1990
20	201-395	宮元遺跡	青森市浪岡大字増館字宮元	散布地	平安	青森県教育委員会2003ｂ

第２節　基本層序

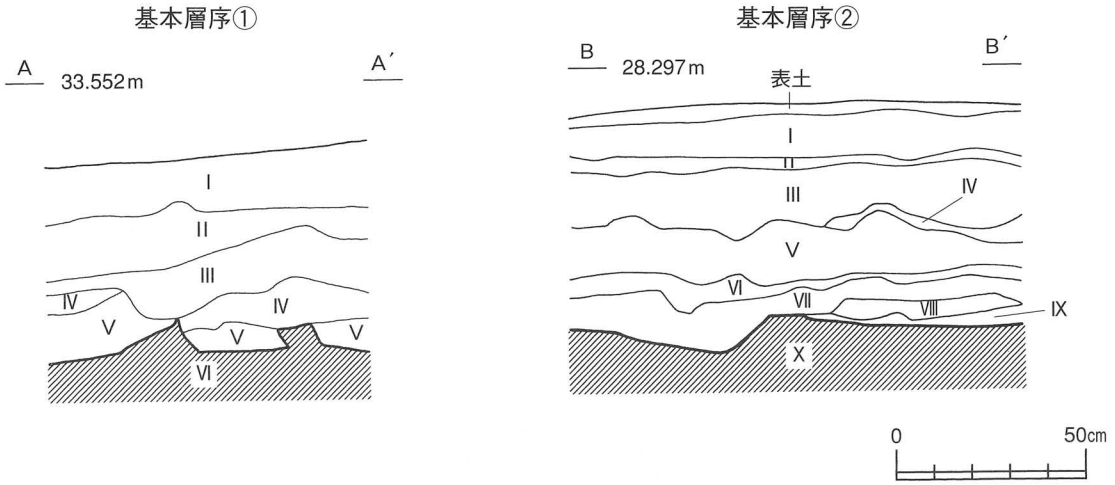
基本層序は、平成20年度調査区西壁（Ａ－Ａ′）および平成21年度調査区西壁（Ｂ－Ｂ′）で観察し、それぞれ６層と10層に分層された（第４図・第６図）。平成20年度基本層序では、撹乱等は少なく、表土下位には自然堆積を確認することができた。本来の遺構面は第Ⅱ層～第Ⅲ層にある可能性が高いが、第Ⅴ層および第Ⅵ層上面が遺構確認面ということになる。第Ⅵ層は地山確認の指標となるローム層であり、黄灰色軽石混じりの褐色粘土層である。

平成21年度基本層序では、おおむね自然堆積が確認されたが、場所によっては表土がさらに厚く堆積しており、遺構確認面まで１ｍを超える箇所もあった。表土上位は前年度調査に比べて細かく分層されたが、基本的な堆積傾向は同様であろう。第Ⅸ層は漸移層、第Ⅹ層は地山ローム層であり、それぞれ前年度調査の第Ⅴ層、第Ⅵ層に相当する。

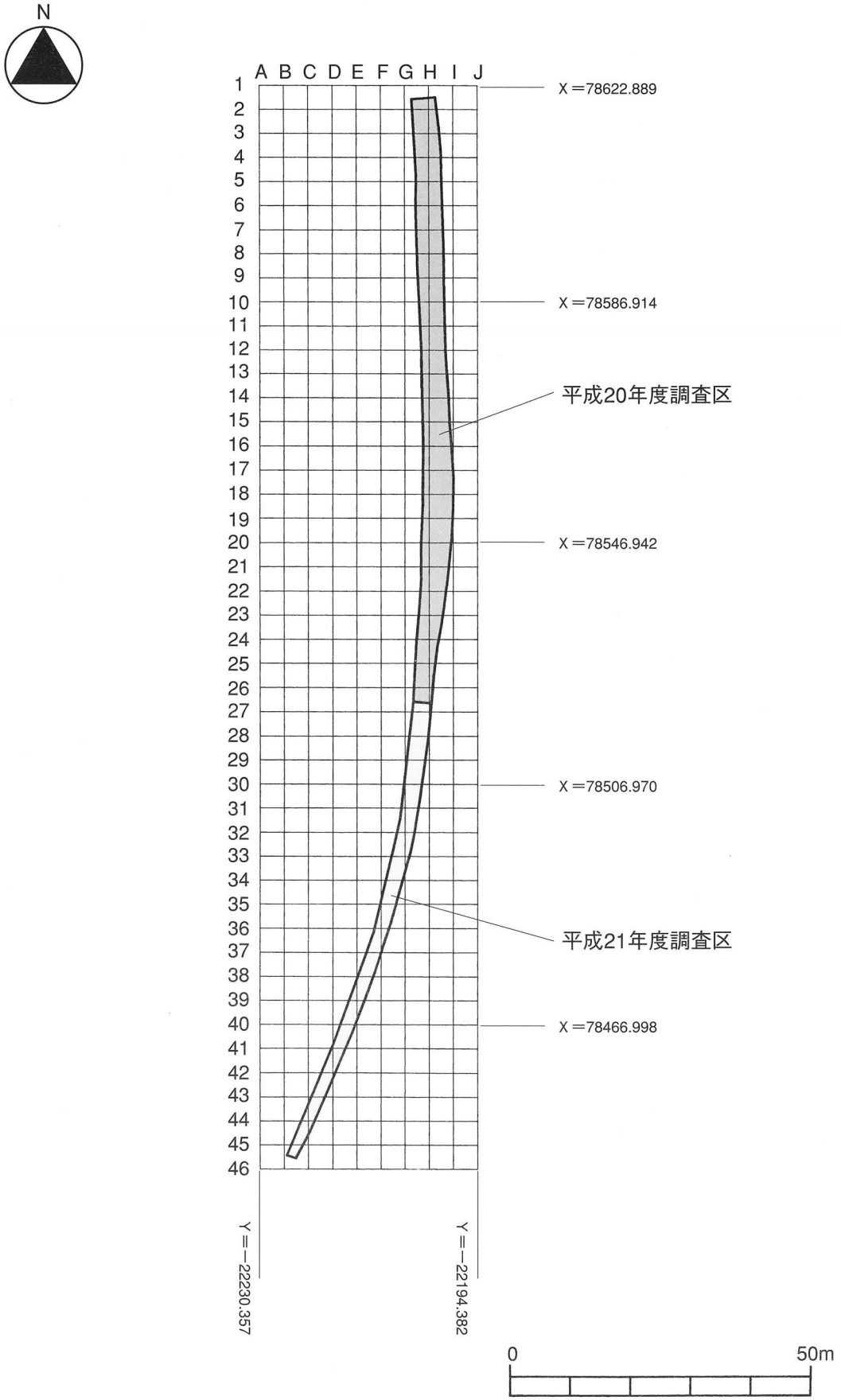
（野坂　知広）

基本層序①（Ａ－Ａ′）
第Ⅰ層　黒色土（10YR2/1）ローム粒（φ1～9㎜）中量、植物根多量
第Ⅱ層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒（φ3～10㎜）少量
第Ⅲ層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒（φ2～4㎜）極微量
第Ⅳ層　黒褐色土（10YR3/1）ローム粒（φ2～4㎜）少量
第Ⅴ層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）漸移層、ローム粒（φ3～10㎜）多量
第Ⅳ層　褐色土（10YR4/4）　地山ローム層（黄灰色軽石混在）

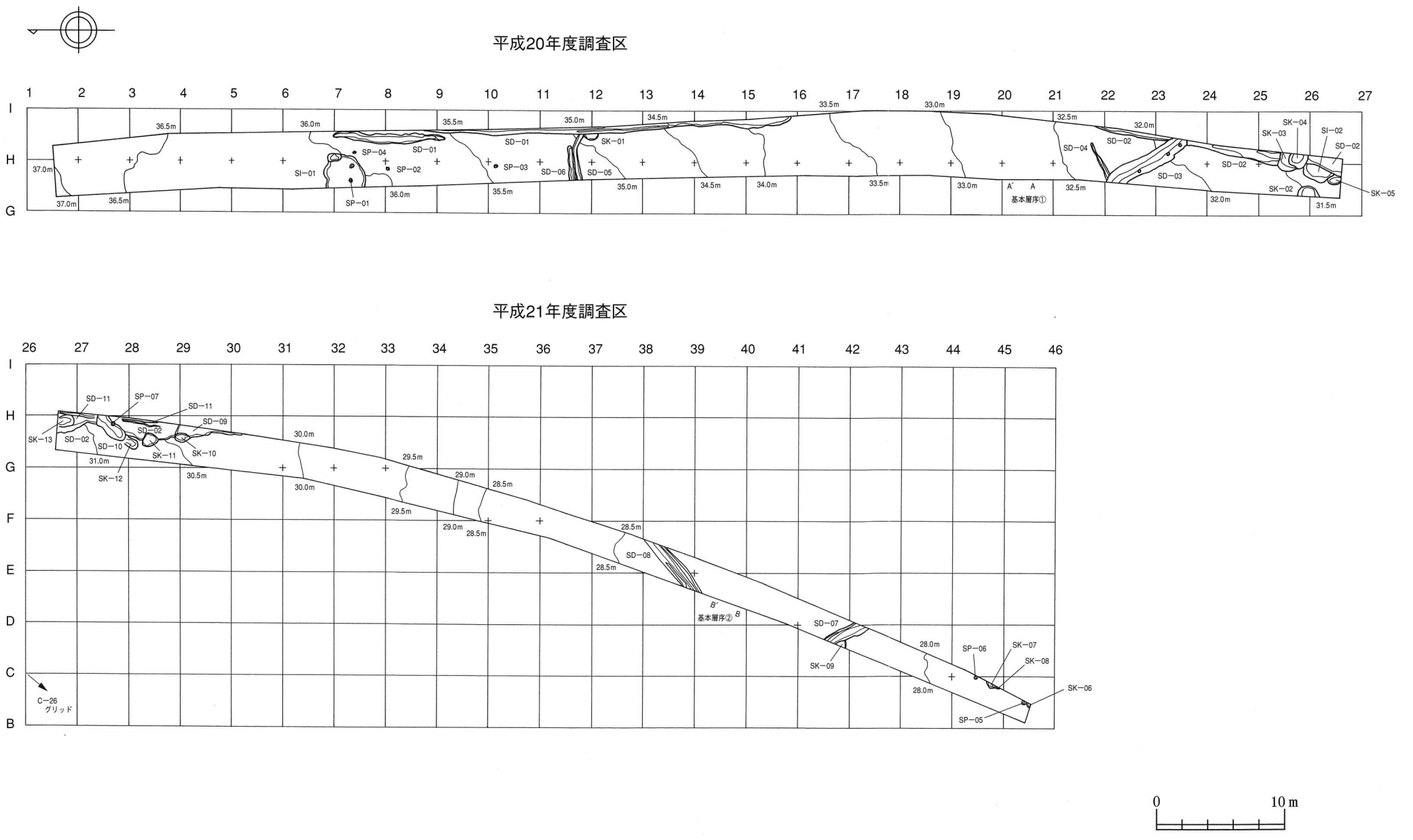
基本層序②（Ｂ－Ｂ′）
第Ⅰ層　黒色土（10YR2/1）炭化物（φ3～5㎜）少量、焼土粒（φ2㎜）微量
第Ⅱ層　黒褐色土（10YR2/2）炭化物（φ1～3㎜）微量、パミス（φ1～2㎜）少量
第Ⅲ層　黒褐色土（10YR3/1）炭化粒（φ1～2㎜）少量、焼土粒（φ2～4㎜）少量
第Ⅳ層　黒褐色土（10YR2/3）パミス（φ1～1.5㎜）少量、炭化物（φ1～2㎜）微量
第Ⅴ層　黒色土（10YR1.7/1）パミス（φ1～2㎜）微量、炭化粒（φ2～4㎜）少量、焼土粒（φ2～3㎜）少量、Ｂ－Ｔｍ中量混入
第Ⅵ層　黒褐色土（10YR2/2）炭化粒（φ1～2㎜）少量、焼土粒（φ3～5㎜）少量、Ｂ－Ｔｍ少量混入
第Ⅶ層　黒褐色土（10YR3/2）パミス（φ2～3㎜）少量、ロームブロック（φ10㎜）極微量
第Ⅷ層　暗褐色土（10YR3/3）パミス（φ1～2㎜）微量、炭化粒（φ1～2㎜）微量
第Ⅸ層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）漸移層、パミス（φ1～5㎜）微量
第Ⅹ層　褐色土（10YR4/4）地山ローム層（黄灰色軽石混在）



第４図　基本層序


N
A B C D E F G H I J
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46
X＝78622.889
X＝78586.914
平成20年度調査区
X＝78546.942
X＝78506.970
平成21年度調査区
X＝78466.998
Y＝−22230.357
Y＝−22194.382
0
50m

第５図　グリッド設定図


平成20年度調査区
平成21年度調査区
SD−01
SD−02
SD−03
SD−04
SD−05
SD−06
SD−07
SD−08
SD−09
SD−10
SD−11
SI−01
SI−02
SP−01
SP−02
SP−03
SP−04
SP−05
SP−06
SP−07
SK−01
SK−02
SK−03
SK−04
SK−05
SK−06
SK−07
SK−08
SK−09
SK−10
SK−11
SK−12
SK−13
基本層序①
基本層序②
C−26
グリッド
0
10 m

第６図　遺構配置図

第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物

平成20年度（2008）および21年度（2009）の調査で検出された遺構は、竪穴遺構２基・土坑13基・小ピット７基・溝状遺構11条である。以下、遺構毎に詳述するが、明確に住居跡と判断できる遺構はなく、調査範囲も狭かったために全体像までは判明しなかった。出土遺物には、おおむね縄文時代（早期・前期）と平安時代（10世紀前半）、近世（江戸時代）、近現代があるが、検出遺構の多くは平安時代（10世紀代）に属するものと思われる。遺構内出土遺物の詳細は観察表（第２表）にまとめた。

第１節　竪穴遺構

第１号竪穴遺構（SI－01、第７図）

Ｈ・Ｉ－６・７グリッドに位置し、西側部分が調査区外にある。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸339㎝×現存短軸262㎝×深さ44㎝を測る。断面は急角度に立ちあがり、底面はほぼ平坦である。覆土は20層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。ただし、第20層のみは人為堆積の可能性がある。

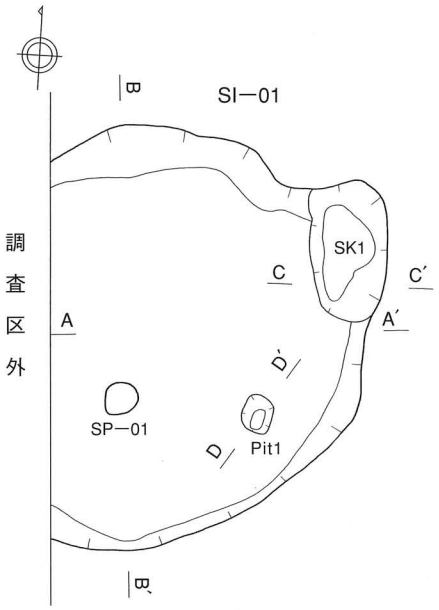
底面からは土坑１基、ピット１基が検出されたが、カマド等、住居跡の痕跡は確認できなかった。SI－01内SK１はSI－01の北東隅に位置し、平面は隅丸長方形を呈す。規模は長軸113㎝×短軸63㎝×深さ14㎝を測り、断面は緩やかに立ち上がる。土坑覆土は５層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。SI－01内Pit１は不整方形を呈し、規模は長軸27㎝×短軸24㎝×深さ26㎝を測る。断面はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。ピット覆土は１層であった。土坑・ピットともにその性格は判然としない。

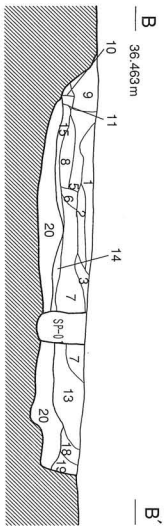
出土遺物は、須恵器坏が１点（第15図１）と土師器坏が３点（第15図２～４）あり、本住居跡の帰属時期の指標となりうる資料であろう。おおむね平安時代（10世紀前半）に推定される。縄文時代の土製耳飾も１点（第15図５）出土しているが、周辺より流れ込んだものと考えられる。

第２号竪穴遺構（SI－02、第７図）

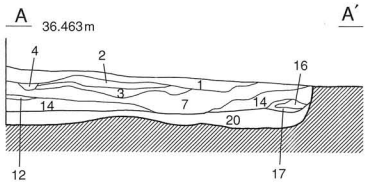
Ｈ－25・26グリッドに位置し、北端がSK－03・04に、東側部分がSD－02に切られている。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸234㎝×現存短軸115㎝×深さ47㎝を測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は10層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。土層観察の結果からはSD－02との区別が困難であり、同時期に構築されたか、あるいはSD－02と一体の遺構である可能性も考えられる。底面からピット等は検出されず、カマド等、住居跡の痕跡は確認できなかった。本遺構はその規模や形態からすればSK－03・04と同種の遺構と分類すべきであったかもしれないが、若干の規模の相違から土坑ではなく竪穴遺構と認識した。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

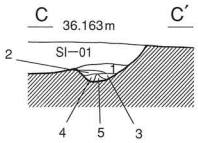




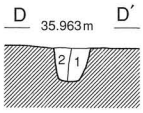
ＳＩ−０１
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1〜10mm）やや多量、ロームブロック（φ13〜15mm）中量、炭化粒（φ3〜5mm）中量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ3〜10mm）少量、炭化粒（φ3mm）極微量、ロームブロック（φ12〜14mm）微量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ2〜9mm）少量、炭化粒（φ4〜6mm）少量
第４層　黒色土　（10YR2/1）　ローム粒（φ1〜4mm）少量、炭化粒（φ1〜4mm）微量
第５層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜4mm）微量、炭化粒（φ3〜5mm）微量
第６層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ2〜3mm）微量
第７層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒（φ2〜9mm）多量、ロームブロック（φ13〜40mm）多量、炭化粒（φ2〜3mm）微量
第８層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ1〜3mm）少量、炭化粒（φ3mm）微量
第９層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ1〜3mm）中量、炭化粒（φ2mm）極微量
第10層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ2〜3mm）微量
第11層　黒褐色土（10YR3/1）　ロームブロック（φ10〜20mm）少量
第12層　灰黄褐色土（10YR4/2）　ローム粒（φ1〜3mm）微量
第13層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜6mm）少量、炭化粒（φ2〜3mm）少量
第14層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒（φ3〜6mm）少量、炭化粒（φ2〜4mm）微量
第15層　褐色土（10YR4/4）　ローム粒（φ1〜3mm）中量
第16層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ1〜2mm）微量
第17層　褐色土（10YR4/4）
第18層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
第19層　黒褐色土（10YR2/3）　ロームブロック（φ10〜30mm）少量
第20層　褐色土（10YR4/4）　掘り方（貼床）、ローム粒（φ2〜5mm）中量、炭化粒（φ3〜4mm）少量



SI−01内SK1

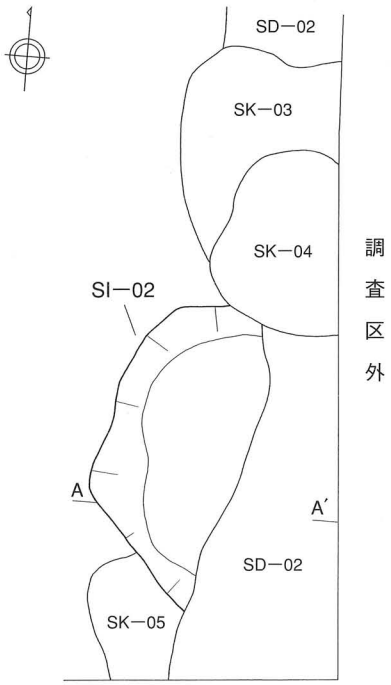


SI−01内Pit1

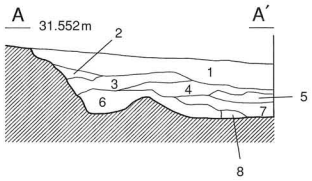


ＳＩ−０１内ＳＫ１
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ2〜4mm）中量、炭化粒（φ1〜2mm）微量
第２層　黒褐色土（10YR3/2）　炭化粒（φ1〜2mm）少量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ3〜10mm）微量
第４層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ5〜6mm）微量
第５層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ1〜2mm）少量

ＳＩ−０１内Ｐｉｔ１
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ2〜3mm）微量、ロームブロック（φ15mm）極微量
第２層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ3〜10mm）少量、炭化粒（φ2〜3mm）微量



SI−02・SD−02④



ＳＩ−０２・ＳＤ−０２④
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜11mm）中量、炭化粒（φ2〜4mm）少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1〜9mm）多量
第３層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ2〜8mm）少量、炭化粒（φ2〜3mm）微量
第４層　黒色土（10YR1.7/1）　ローム粒（φ3〜7mm）微量、炭化粒（φ2〜3mm）少量
第５層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1〜2mm）少量、焼土粒（φ4〜5mm）微量
第６層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ1〜4mm）少量、焼土粒（φ1〜6mm）微量、炭化粒（φ2〜3mm）少量
第７層　黒褐色土（10YR2/2）　ロームブロック（φ20〜70mm）多量
第８層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ1〜2mm）微量

第７図　竪穴遺構

第２節　土坑

第１号土坑（SK－01、第８図）

Ⅰ－11・12グリッドに位置し、東側部分がSD－01に切られている。平面は不整楕円形を呈し、規模は長軸107㎝×短軸53㎝×深さ12㎝を測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は１層であるが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第２号土坑（SK－02、第８図）

Ｈ－25・26グリッドに位置し、西側部分が調査区外にある。平面は不整楕円形を呈し、規模は長軸194㎝×短軸88㎝×深さ52㎝を測る。断面はやや急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は６層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第３号土坑（SK－03、第８図）

Ｈ・Ⅰ－25グリッドに位置し、東側部分が調査区外にある。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸151㎝×現存短軸127㎝×深さ20㎝を測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は５層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。平面図ではSD－02を切っているように見えるが、実際にはSD－02・SK－04に切られている。遺構の深さも本来はもっと深かったのであろう。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第４号土坑（SK－04、第８図）

Ｈ・Ⅰ－25グリッドに位置し、東側部分が調査区外にある。SD－02に切られ、SK－03を切っている。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸148㎝×現存短軸100㎝×深さ47㎝を測る。SK－03同様、本来はもっと深い遺構であったものと思われる。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は13層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

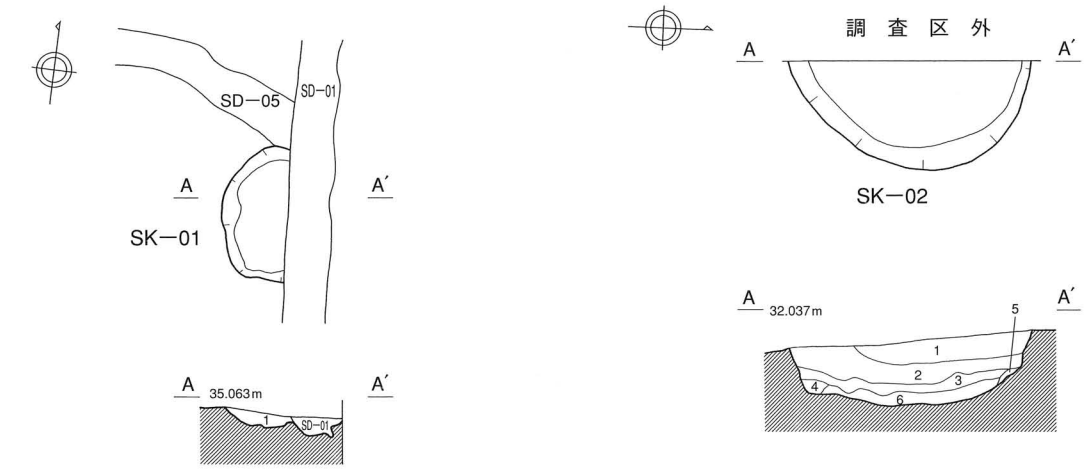
第５号土坑（SK－05、第８図）

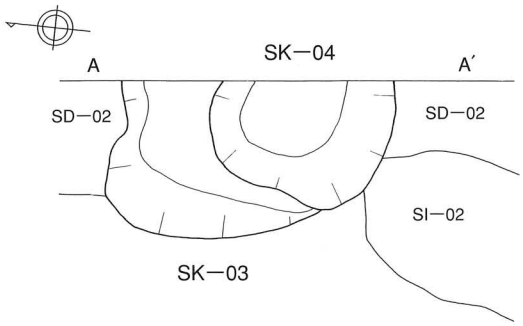
Ｈ－26グリッドに位置し、南側部分が調査区外にある。また、SI－02・SD－02に切られている。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸112㎝×短軸73㎝×深さ19㎝を測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は３層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

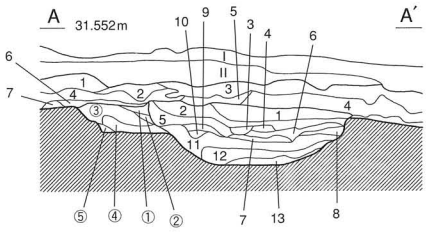
第６号土坑（SK－06、第９図）

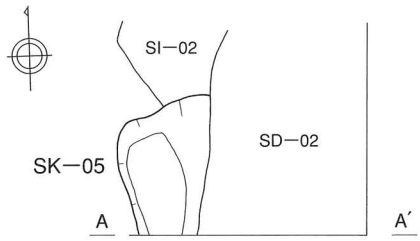
Ｃ－45グリッド、調査区最南端に位置し、SP－05に切られる。平面はおそらく不整楕円形を呈し、規模は現存長軸51㎝×現存短軸28㎝×深さ39㎝を測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は４層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。



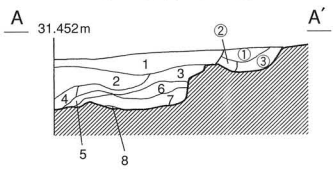


SK−03・05・SD−02④





SD−02⑤・SK−05



ＳＫ−０１
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ2〜6mm）少量、炭化粒（φ1〜3mm）微量、ロームブロック（φ13mm）極微量

ＳＫ−０２
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1〜3mm）中量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜4mm）少量、炭化粒（φ1〜2mm）極微量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜10mm）中量、ロームブロック（φ13〜50mm）少量
第４層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ3〜5mm）中量
第５層　褐色土（10YR6/6）　ローム
第６層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ2〜8mm）中量

ＳＤ−０２④
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1〜7mm）少量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜4mm）少量、炭化粒（φ1〜3mm）少量
第３層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ1〜3mm）少量、炭化粒（φ2〜4mm）少量
第４層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜6mm）中量、ロームブロック（φ22mm）極微量、炭化粒（φ2〜3mm）微量
第５層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ2〜3mm）中量
第６層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ1〜7mm）中量、炭化粒（φ1〜3mm）微量
第７層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ3〜8mm）中量

ＳＫ−０３
第①層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ2〜10mm）少量、炭化粒（φ2〜3mm）微量
第②層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ2〜5mm）少量
第③層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ2〜10mm）中量、ロームブロック（φ25〜70mm）少量、炭化粒（φ2〜4mm）少量
第④層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜11mm）少量、炭化粒（φ2〜3mm）少量
第⑤層　黒色土（10YR2/1）

ＳＫ−０４
第１層　褐灰色土（10YR4/1）　ローム粒（φ2〜6mm）少量、炭化粒（φ2〜3mm）微量、粘土質
第２層　灰黄褐色土（10YR4/2）　ローム粒（φ1〜7mm）微量、炭化粒（φ2〜3mm）少量、粘土質
第３層　黒褐色土（10YR2/3）
第４層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒（φ2〜3mm）微量、砂粒中量
第５層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ2〜10mm）少量、ロームブロック（φ25〜30mm少量）
第６層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ2〜3mm）少量、炭化粒（φ2〜3mm）微量
第７層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ4mm）極微量
第８層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ1〜3mm）少量、炭化粒（φ2〜3mm）少量
第９層　褐灰色土（10YR4/1）　ローム粒（φ2〜3mm）微量
第10層　暗褐色土（10YR3/3）　砂粒多量
第11層　灰黄褐色土（10YR4/2）　ローム粒（φ4〜8mm）微量、炭化粒（φ1〜2mm）微量、粘土質
第12層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒（φ3〜9mm）少量、炭化粒（φ3〜4mm）少量
第13層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ1〜10mm）中量、炭化粒（φ2〜4mm）中量

ＳＫ−０５
第①層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜3mm）中量
第②層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ1〜3mm）多量
第③層　黒色土（10YR1.7/1）　ローム粒（φ2〜8mm）多量、炭化粒（φ2〜3mm）少量

ＳＤ−０２⑤
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1〜5mm）少量、炭化粒（φ2〜4mm）少量、にぶい黄橙色（10YR7/2）粘土粒（φ4〜10mm）微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ4〜6mm）少量、にぶい黄橙色（10YR7/2）粘土粒（φ1〜4mm）微量
第３層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ2〜4mm）少量
第４層　褐灰色土（10YR4/1）　ローム粒（φ1〜3mm）少量、炭化粒（φ1〜2mm）微量
第５層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜5mm）微量
第６層　褐灰色土（10YR4/1）　ローム粒（φ1〜6mm）多量
第７層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ2〜7mm）中量、炭化粒（φ1〜3mm）微量
第８層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム層

0　2m

第８図　土坑（１）

第７号土坑（SK－07、第９図）

Ｃ－44グリッドに位置し、東側は調査区外にある。また、SK－08を切っている。平面は不整楕円形を呈し、二つの土坑が重なったような形状をなす。あるいはSK－08と同一遺構であったかもしれない。規模は現存長軸100㎝×現存短軸41㎝×深さ26㎝を測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面は僅かに段差を持つ。覆土は４層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第８号土坑（SK－08、第９図）

Ｃ－44グリッドに位置し、東側は調査区外にある。SK－07に切られている。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸40㎝×現存短軸22㎝×深さ23㎝を測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は４層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第９号土坑（SK－09、第９図）

Ｄ－41グリッドに位置し、東側は調査区外にある。また、SD－07を切っている。平面は不整円形を呈し、規模は現存長軸110㎝×現存短軸57㎝×深さ89㎝を測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、一部内傾する個所もある。底面は若干の凹凸を持つ。覆土は５層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。ただし、第１層は柱穴痕などの可能性が高く、本来は本遺構とは別遺構の可能性が高い。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第10号土坑（SK－10、第９図）

Ｈ－28・29グリッドに位置し、SD－09と一体であるようにも見える。平面は不整楕円形を呈し、規模は長軸118㎝×短軸74㎝×深さ30㎝を測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。当初、SD－09と同一遺構と考えていたため層序の詳細は不明であるが、覆土はおおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第11号土坑（SK－11、第９図）

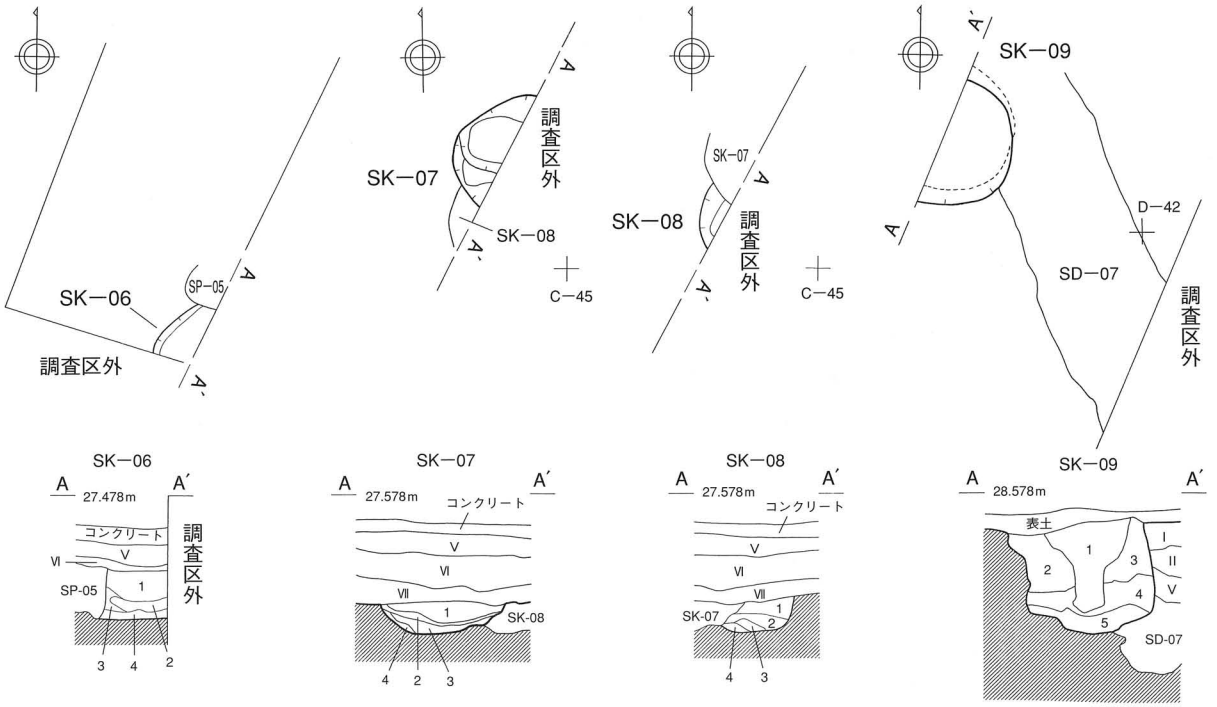
Ｈ－28グリッドに位置し、SD－02を切っている。平面は不整楕円形を呈し、規模は長軸119㎝×短軸103㎝×深さ15㎝を測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。当初、SD－02と同一遺構と考えていたため層序の詳細は不明であるが、覆土はおおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第12号土坑（SK－12、第９図）

Ｈ－27・28グリッドに位置し、西端部分が不明瞭である。平面はおそらく不整楕円形を呈するものと思われ、規模は現存長軸100㎝×現存短軸69㎝×深さ19㎝を測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面は凹凸を持つ。覆土は３層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

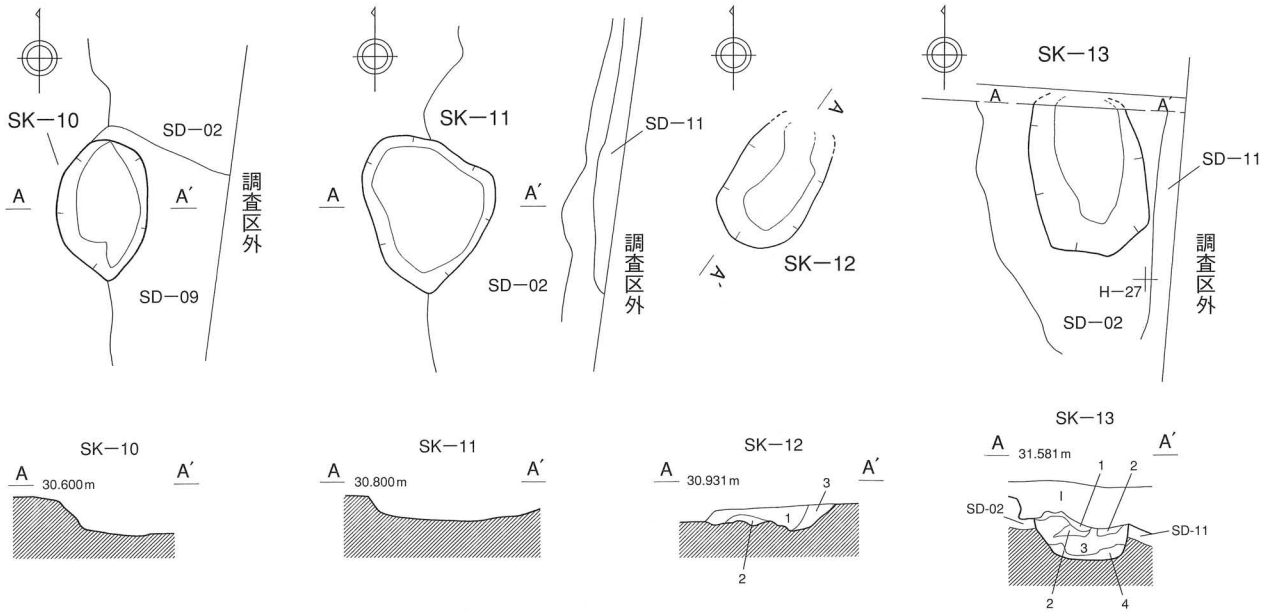


ＳＫ−０６
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜5mm）中量、炭化粒（φ1〜2mm）微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜10mm）少量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1mm）極微量
第４層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ5〜10mm）中量

ＳＫ−０７
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜5mm）中量、ロームブロック（φ10〜30mm）少量、炭化粒（φ1〜5mm）微量
第２層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ1〜5mm）少量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜5mm）中量
第４層　黒褐色土（10YR2/2）　ロームブロック（φ10〜20mm）多量

ＳＫ−０８
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜5mm）中量、ロームブロック（φ10〜30mm）少量、炭化粒（φ1〜3mm）微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜5mm）少量、ロームブロック（φ10〜50mm）多量
第３層　黄褐色土（10YR5/6）
第４層　黒褐色土（10YR2/3）　ロームブロック（φ30mm）中量

ＳＫ−０９
第１層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ3〜11mm）少量、炭化粒（φ1〜2mm）微量
第２層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ1〜9mm）多量、ロームブロック（φ15〜25mm）中量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ4〜10mm）少量
第４層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1〜23mm）多量、炭化粒（φ3〜5mm）微量
第５層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ2〜9mm）少量



ＳＫ−１２
第１層　黒色土（10YR1.7/1）　ローム粒（φ1〜10mm）少量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　黒色土（10YR1.7/1）少量混在
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　暗褐色土（10YR3/3）少量混在

ＳＫ−１３
第１層　暗褐色土（10YR3/3）　炭化粒（φ1〜3mm）少量
第２層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ2〜7mm）少量、炭化粒（φ3〜5mm）少量
第３層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒（φ1〜10mm）多量、炭化粒（φ3〜5mm）少量
第４層　褐色土（10YR4/6）

第９図　土坑（２）

第13号土坑（SK－13、第９図）

Ｈ－26グリッドに位置し、SD－02と一体のようにも見える。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸116㎝×現存短軸90㎝×深さ25㎝を測る。ただし、当初はSD－02としていたため、その規模や深さは判然としない。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は４層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第３節　小ピット

第１号小ピット（SP－01、第10図）

Ｈ－７グリッドに位置し、SI－01を切るように構築されている。平面は不整円形を呈し、規模は長軸26㎝×短軸25㎝×深さ41㎝を測る。断面はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。覆土は８層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第２号小ピット（SP－02、第10図）

Ｈ－８グリッドに位置する。平面は不整方形を呈し、規模は長軸24㎝×短軸23㎝×深さ20㎝を測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は４層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、その詳細は不明である。

第３号小ピット（SP－03、第10図）

Ｈ－10グリッドに位置する。平面は不整方形を呈し、規模は長軸23㎝×短軸22㎝×深さ49㎝を測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は４層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第４号小ピット（SP－04、第10図）

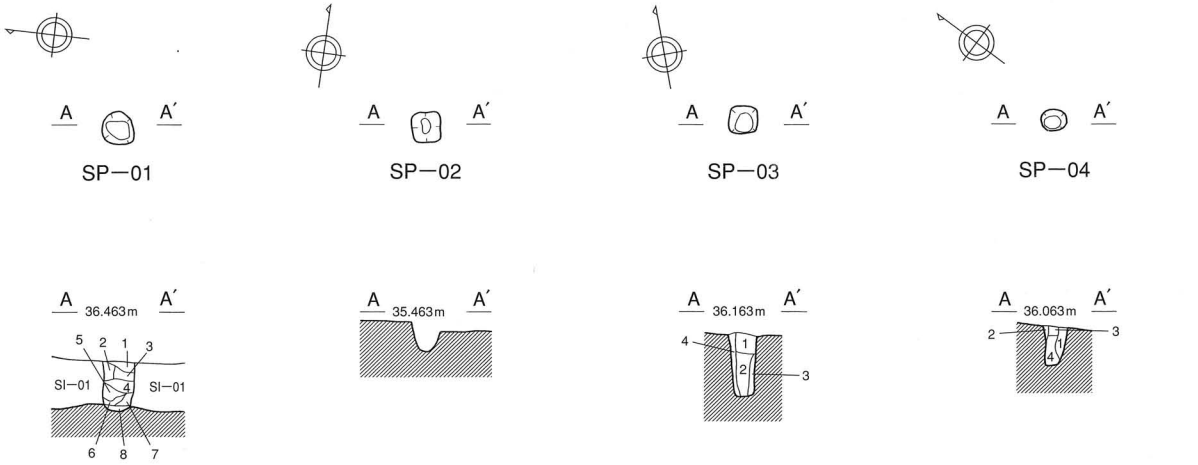
Ｉ－７グリッドに位置する。平面は不整楕円形を呈し、規模は長軸21㎝×短軸17㎝×深さ31㎝を測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は４層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第５号小ピット（SP－05、第10図）

Ｃ－45グリッドに位置し、東端が調査区外にある。SK－06を切っている。平面は不整円形を呈し、規模は現存長軸33㎝×現存短軸32㎝×深さ42㎝を測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は段差を持っている。覆土は５層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

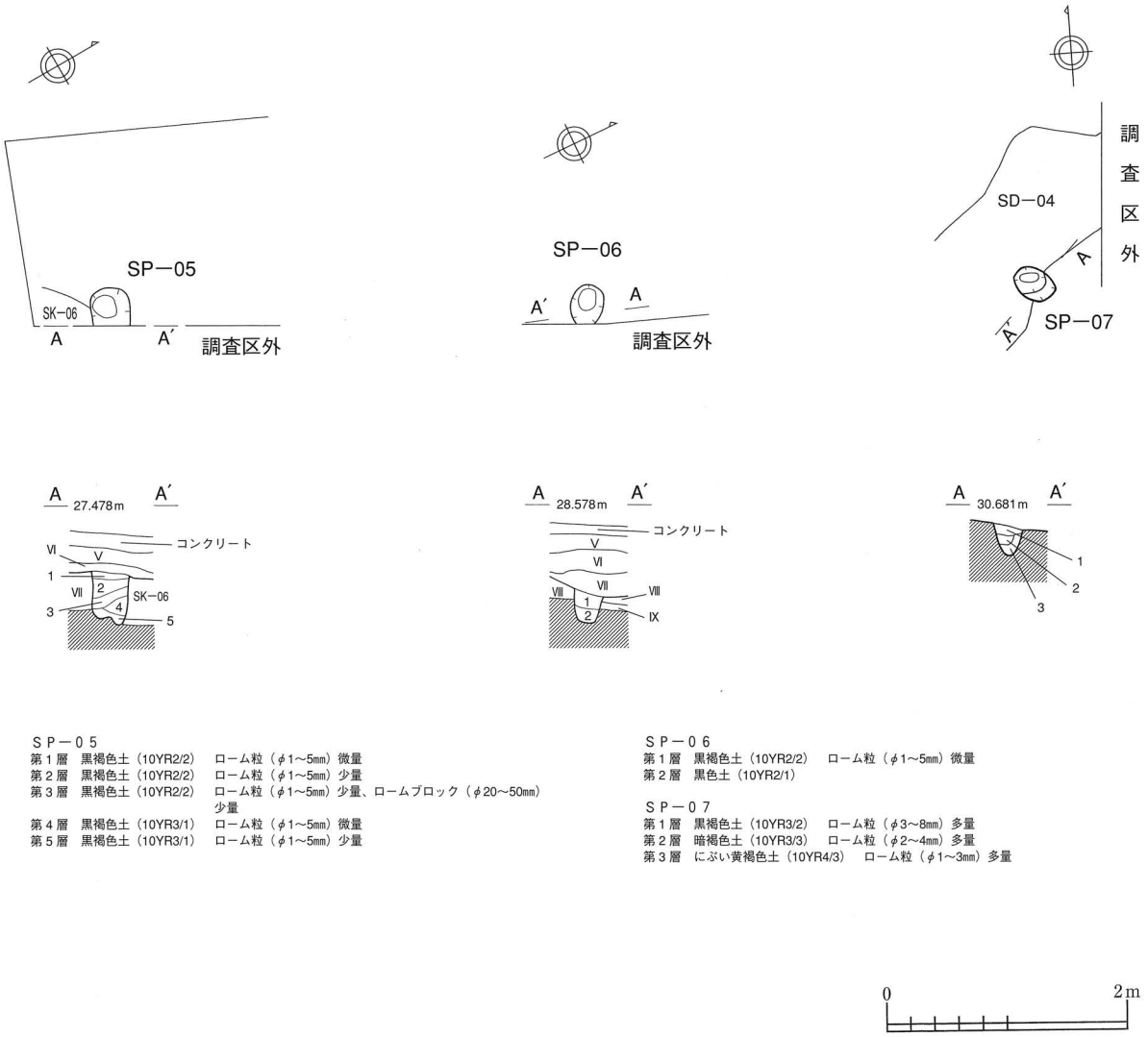
出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。



ＳＰ−０１
第１層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）
第２層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ2〜7㎜）中量
第３層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒（φ2〜3㎜）少量
第４層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
第５層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ2〜3㎜）中量
第６層　黒褐色土（10YR2/3）　ロームブロック（φ20〜40㎜）少量
第７層　褐色土（10YR4/6）
第８層　褐灰色土（10YR4/1）　ローム粒（φ2〜3㎜）中量

ＳＰ−０３
第１層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒（φ1〜9㎜）多量
第２層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ2〜8㎜）中量
第３層　黒色土（10YR1.7/1）　ロームブロック（φ19〜25㎜）少量
第４層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）

ＳＰ−０４
第１層　褐色土（10YR4/6）　黒色土（10YR2/1）混在
第２層　褐色土（10YR4/4）
第３層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ2〜4㎜）少量
第４層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ2〜9㎜）少量



ＳＰ−０５
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜5㎜）微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜5㎜）少量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜5㎜）少量、ロームブロック（φ20〜50㎜）少量
第４層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ1〜5㎜）微量
第５層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ1〜5㎜）少量

ＳＰ−０６
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜5㎜）微量
第２層　黒色土（10YR2/1）

ＳＰ−０７
第１層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ3〜8㎜）多量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒（φ2〜4㎜）多量
第３層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒（φ1〜3㎜）多量

0　2m

第10図　小ピット

第６号小ピット（SP－06、第10図）

Ｃ－44グリッドに位置し、東端が調査区外にある。平面は不整円形を呈し、規模は現存長軸32㎝×現存短軸26㎝×深さ24㎝を測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は２層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第７号小ピット（SP－07、第10図）

Ｈ－27グリッドに位置し、SD－10を切っている。平面は不整楕円形を呈し、規模は長軸35㎝×短軸25㎝×深さ24㎝を測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は３層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第４節　溝状遺構

第１号溝状遺構（SD－01、第11図）

Ｉ－７～15グリッドに位置する。平面は僅かな凹凸を持ちながらも直線的な溝状を呈し、規模は現存長35.7ｍ×現存幅0.5ｍ×深さ0.2ｍを測る。断面は急角度で立ち上がる部分と下位はほぼ垂直に立ちあがり上位で緩やかに外傾する部分がある。底面はほぼ平坦であるが、東側部分が調査区外に位置するため詳細は不明である。覆土は３層～５層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。覆土上位からはB-Tm火山灰がまとまって層状に検出された。おそらく本遺構の廃絶後、一定期間を経てから火山灰が降下・堆積したものと思われる。なお、本遺構とSD－02・09・11は途中断絶もあるが、その位置関係から見れば本来は同一遺構である可能性が高い（第６図・第11図）。主軸方向は北（Ｎ－６°－Ｗ）にある。

出土遺物は、縄文土器・土師器・鉄製品・陶磁器等があるが、小片が多く、図示できたのは縄文土器１点（第15図６）と土師器坏１点（第15図７）、陶磁器３点（第15図８～10）のみであった。第15図６は円筒形を呈する深鉢形土器の口縁部資料と思われ、口縁部にはＬＲ押圧、隆帯にはスリットが観察される。縄文時代前期末葉（円筒下層ｄ式）の所産であろう。第15図８は肥前焼あるいは肥前焼模倣の擂鉢、第15図９は磁器小鉢と思われ、第15図10は磁器皿である。第15図10は内面が染付、外面は青磁釉が特徴的である。陶磁器の所産時期はすべて近世～近現代であるが、第15図８・10は近世の遺物であろうか。ただし、本遺構の帰属時期は降下火山灰の堆積状況などからみても平安時代（10世紀前半）の可能性が高い。

第２号溝状遺構（SD－02、第11図）

Ｈ－25・26、Ｉ－21～26グリッドに位置する。平面は僅かな凹凸を持ちながらも直線的な溝状を呈し、規模は現存長19.5ｍ×現存幅1.2ｍ×深さ0.45ｍを測る。断面は下位でほぼ垂直に立ち上がり上位で緩やかに外傾する部分が多い。底面は平坦な部分もあるが、東側部分が調査区外に位置するため詳細は不明である。覆土は１層～８層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。前述したようにSD－01・09・11とは同一遺構である可能性が高い。主軸方向は北（Ｎ－３°－Ｅ）にある。

出土遺物は、土師器・陶磁器等があるが、やはり小片が多く、図示できたのは近現代陶器の土瓶１点（第

15図11）のみであった。第15図11は判然としないが、信楽焼あるいは信楽焼模倣の汽車土瓶の可能性もある。撹乱が激しいが、本遺構の帰属時期はおおよそ平安時代（10世紀前半）であろう。

第３号溝状遺構（SD－03、第12図）

Ｈ・Ｉ－22・23グリッドに位置する。平面は幅広で僅かに南側へ曲がる形状を呈し、規模は現存長5.9m×現存幅1.4m×深さ0.5mを測る。断面は下位で急角度に立ちあがり、上位で僅かに外傾する。覆土は７層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。底面はほぼ平坦であるが、溝状遺構の南側壁面でピットが３基検出されている。３基とも平面は不整円形を呈し、断面はほぼ垂直に立ち上がる。SD－03内ピット１は長軸18cm×短軸15cm×深さ42cm、SD－03内ピット２は長軸20cm×短軸19cm×深さ32cm、SD－03内ピット３は長軸15cm×短軸14cm×深さ38cmを測る。ピット３基はほぼ直線上に並んでおり、柵列の痕跡かとも思われたが判然としない。主軸方向は北西（Ｎ－35°－Ｗ）にある。

出土遺物は、土師器・石器等があるが、図示できたのは土師器甕１点（第15図12）と縄文時代の石匙１点（第15図13）のみであった。第15図12はロクロ整形による土師器甕であり、外面にはロクロナデ調整が観察される。第15図13はつまみ部を一部欠損する縦型石匙であり、両側縁の刃部調整は背面では向かって左側縁で顕著となり、右側縁では腹面からの細部調整が主体となる。背面中央部には古い剥離面を残し、石質は珪質頁岩である。ただし、石匙は周辺より流れ込んだものと考えられ、本遺構の帰属時期はおそらく平安時代（10世紀前半）であろう。

第４号溝状遺構（SD－04、第12図）

Ｈ－21・22、Ｉ－21グリッドに位置し、SD－03に切られている。平面は僅かな凹凸を持ちながらも直線的な溝状を呈し、東側で収束する。規模は現存長2.4m×現存幅0.4m×深さ0.1mを測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は２層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北東（Ｎ－60°－Ｅ）にある。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第５号溝状遺構（SD－05、第13図）

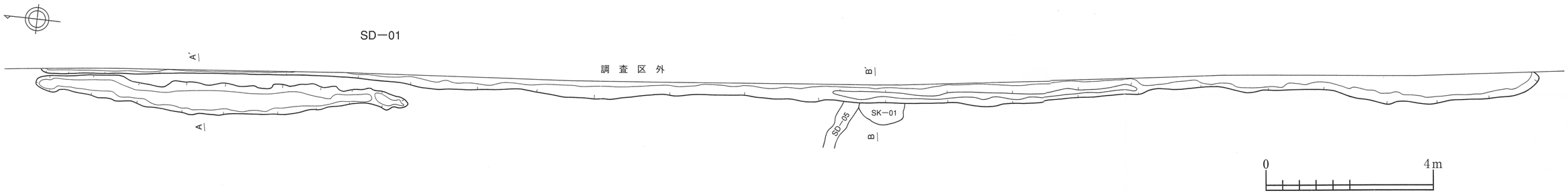
Ｈ・Ｉ－11グリッドに位置し、東側がSD－01に切られ、西側は調査区外に延びている。平面は直線的な溝状を呈するが、途中で南側へ湾曲する。規模は現存長3.5m×現存幅0.5m×深さ0.35mを測り、SD－06と並行して隣接する。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は３層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は東（Ｎ－85°－Ｅ）にある。

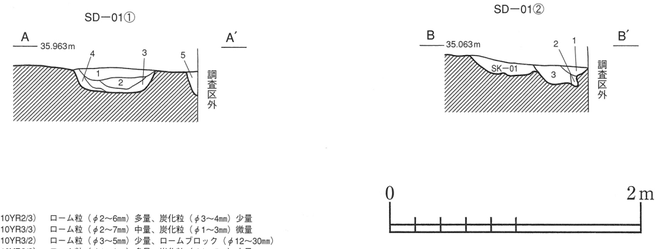
出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。SD－06とセットになると思われ、集落を区画する溝跡の可能性がある。

第６号溝状遺構（SD－06、第13図）

Ｈ・Ｉ－11グリッドに位置し、西側が調査区外に延びている。平面は直線的な溝状を呈し、規模は現存長2.6m×現存幅0.4m×深さ0.35mを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は５層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は東（Ｎ－85°－Ｅ）にある。

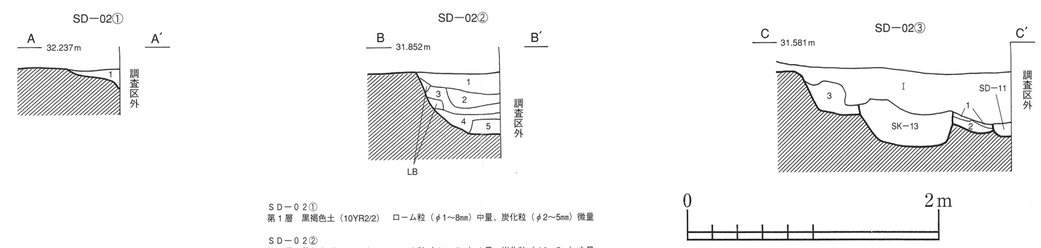
出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。SD－05とセットになると思われ、集落を区画する溝跡の可能性がある。





ＳＤ－０１①
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ2～6mm）多量、炭化粒（φ3～4mm）少量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒（φ2～7mm）中量、炭化粒（φ1～3mm）微量
第３層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ3～5mm）少量、ロームブロック（φ12～30mm）
第４層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1～6mm）多量、炭化粒（φ2～5mm）少量
第５層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ2～3mm）少量、炭化粒（φ2～3mm）微量、礫多量に混入

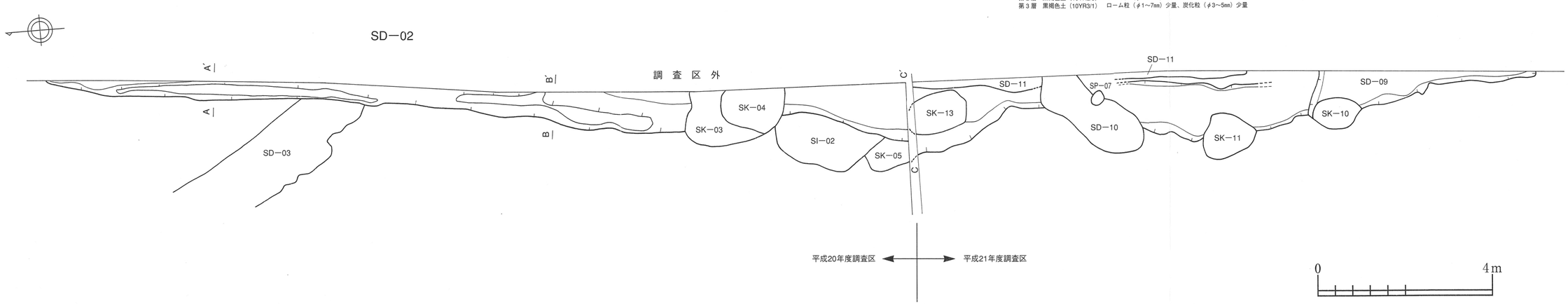
ＳＤ－０１②
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ2～3mm）少量、炭化粒（φ1～3mm）微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1～4mm）微量
第３層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ3～7mm）少量、炭化粒（φ2～5mm）少量



ＳＤ－０２①
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1～8mm）中量、炭化粒（φ2～5mm）微量

ＳＤ－０２②
第１層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ2～5mm）少量、炭化粒（φ3～5mm）少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1～6mm）中量、褐灰色土（10YR4/1）混在
第３層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ1～7mm）少量、炭化粒（φ3～5mm）少量、褐灰色土（10YR4/1）少量混在
第４層　褐灰色土（10YR4/1）　ローム粒（φ1～8mm）少量、炭化粒（φ2～3mm）少量
第５層　褐灰色土（10YR4/1）　ローム粒（φ2～7mm）多量、炭化粒（φ3～4mm）微量、黒色土（10YR2/1）少量混在

ＳＤ－０２③
第１層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ2～5mm）少量、炭化粒（φ3～5mm）少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1～6mm）中量、褐灰色土（10YR4/1）混在
第３層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ1～7mm）少量、炭化粒（φ3～5mm）少量



第11図　溝状遺構（１）

第７号溝状遺構（SD－07、第13図）

Ｄ－41・42、Ｅ－42グリッドに位置し、東西両端が調査区外に延びている。また、SK－09に切られている。平面は若干西側へ屈曲するようにも見えるが、ほぼ直線的な溝状を呈し、規模は現存長2.7ｍ×現存幅0.96ｍ×深さ0.6ｍを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。また、断面下位で急角度に立ち上がり、断面上位で緩やかに外傾する箇所がある。覆土は３層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北西（Ｎ－36°－Ｗ）にある。

出土遺物は土師器坏（第15図14）と土師器甕（第15図15）があり、ともに回転糸切痕（右）を持つ底部資料である。本遺構の帰属時期はおそらく平安時代（10世紀前半）と思われる。

第８号溝状遺構（SD－08、第14図）

Ｅ－38・39、Ｆ－38グリッドに位置し、東西両端が調査区外に延びている。平面は直線的な溝状を呈し、規模は現存長4.45ｍ×現存幅1.2ｍ×深さ0.48ｍを測る。断面は段差を持つようにも見えるが、下位で急角度に、上位で緩やかに外傾して立ち上がるのであろう。底面はほぼ平坦である。覆土は２層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北東（Ｎ－45°－Ｅ）にある。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第９号溝状遺構（SD－09、第14図）

Ｈ－28～30グリッドに位置し、南側で調査区外に延びている。北側はSK－10に切られており、SD－02との連続関係は判然としないため別遺構のように記述した。しかしながら、前述したようにSD－01・02・11とは同一遺構である可能性が高い。平面は僅かな凹凸を持ちながらも直線的な溝状を呈し、規模は現存長5.1ｍ×現存幅0.78ｍ×深さ0.2ｍを測る。断面は急角度で立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は３層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北（Ｎ－３°－Ｅ）にある。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

第10号溝状遺構（SD－10、第14図）

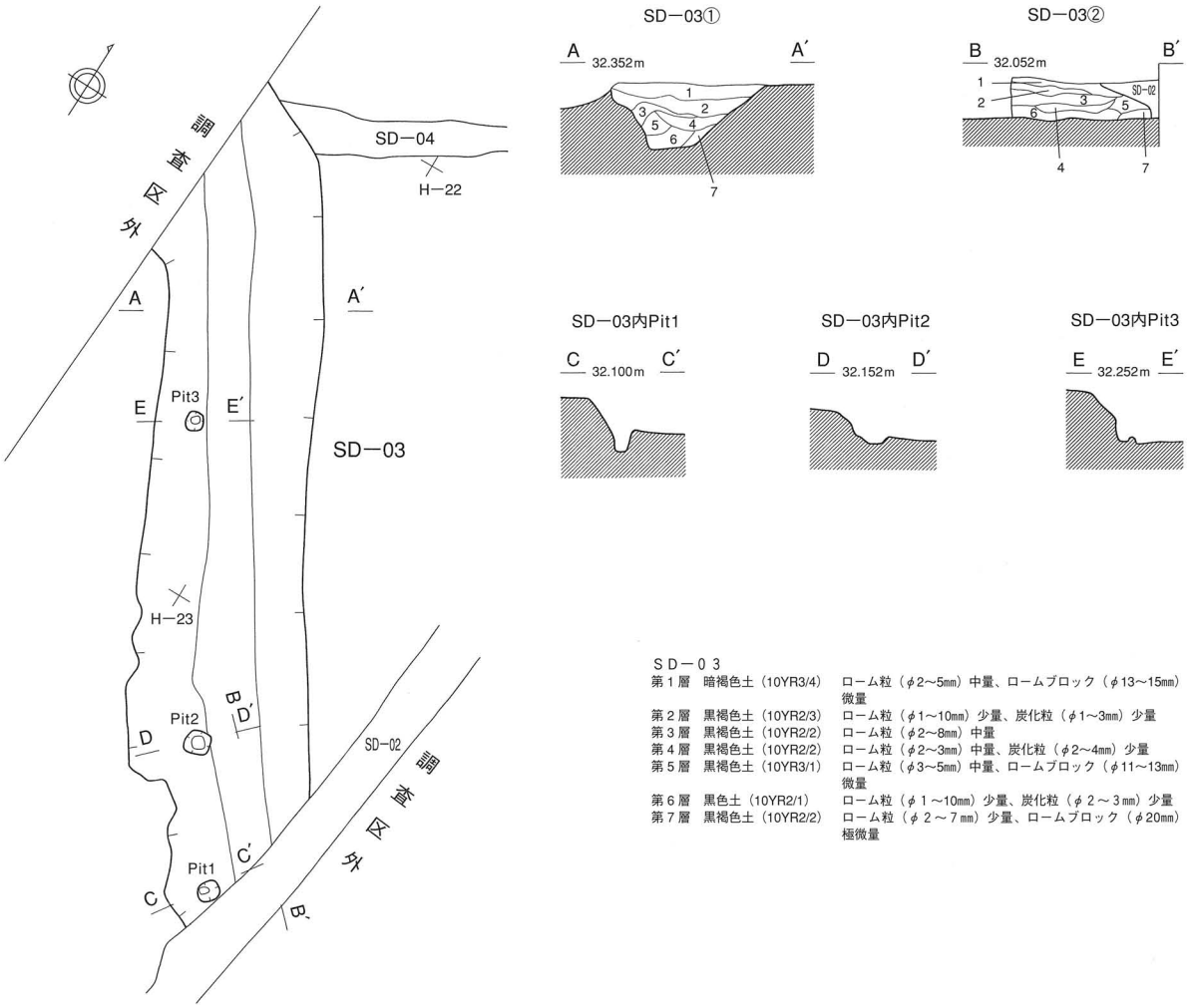
Ｈ－27グリッドに位置し、東端が調査区外に延びている。また、SP－07に切られる。SD－02を分断するように切っているが、西端が検出されている。平面は舌状を呈し、規模は現存長2.7ｍ×現存幅1.1ｍ×深さ0.3ｍを測る。断面は急角度で立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は４層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北東（Ｎ－42°－Ｅ）にある。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

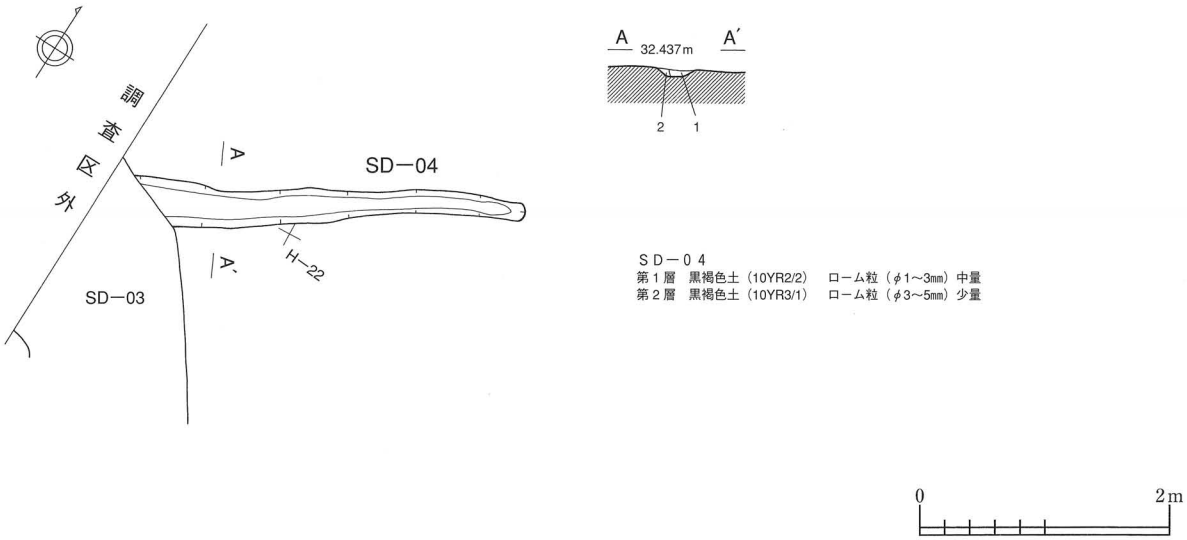
第11号溝状遺構（SD－11、第14図）

Ｈ－27・28グリッドに位置し、東側は調査区外にある。北側がどのように続くかは判然とせず、並行するSD－02とは別遺構として記述しているが、前述したように本来はSD－01・02・09と同一遺構の可能性が高い。平面は直線的な溝状を呈し、規模は現存長2.8ｍ×現存幅0.2ｍ×深さ0.4ｍを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面は不明である。当初、SD－02と同一遺構として認識していたため、覆土は不明な部分もあるが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北（Ｎ－３°－Ｅ）にある。

出土遺物はないが、本遺構の帰属時期は不明である。



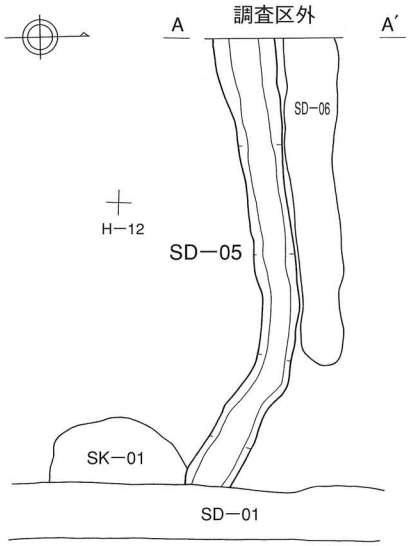
ＳＤ−０３
第１層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒（φ2〜5mm）中量、ロームブロック（φ13〜15mm）微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1〜10mm）少量、炭化粒（φ1〜3mm）少量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ2〜8mm）中量
第４層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ2〜3mm）中量、炭化粒（φ2〜4mm）少量
第５層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ3〜5mm）中量、ロームブロック（φ11〜13mm）微量
第６層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ１〜10mm）少量、炭化粒（φ２〜３mm）少量
第７層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ２〜７mm）少量、ロームブロック（φ20mm）極微量

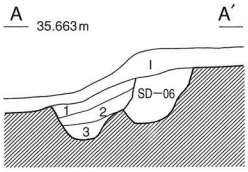


ＳＤ−０４
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜3mm）中量
第２層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ3〜5mm）少量

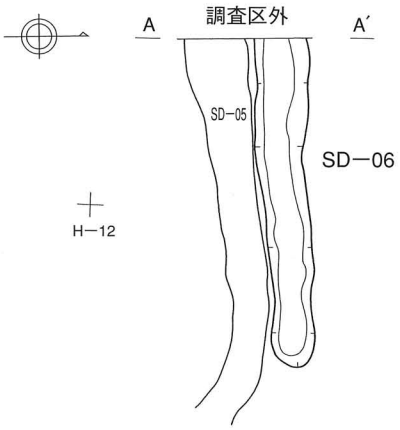
0　2m

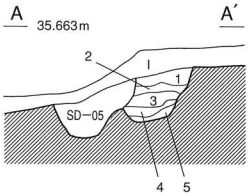
第12図　溝状遺構（２）



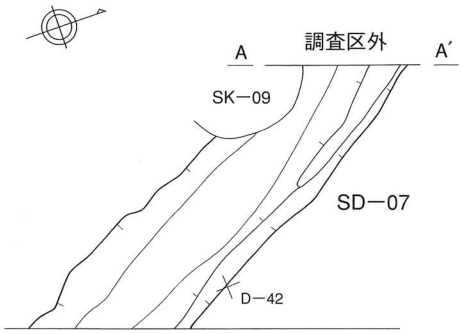


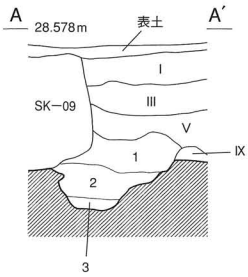
ＳＤ−０５
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ2〜9mm）中量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ2〜9mm）少量
第３層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ1〜4mm）微量、炭化粒（φ3mm）少量





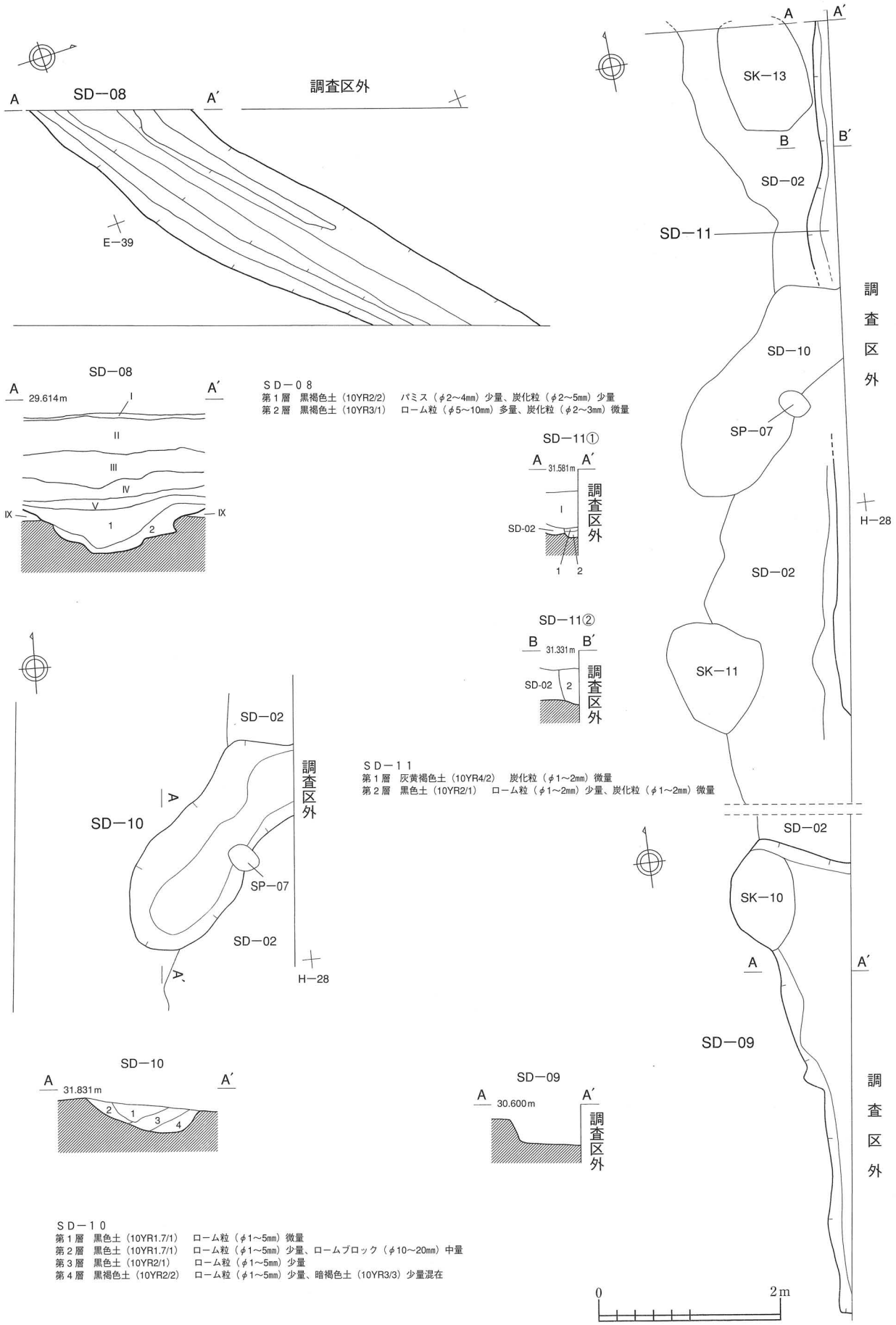
ＳＤ−０６
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜3mm）少量、ロームブロック（φ35mm）極微量、炭化粒（φ3mm）極微量
第２層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ1〜2mm）微量
第３層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ1〜7mm）少量
第４層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ1〜7mm）中量
第５層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒（φ3〜10mm）多量





ＳＤ−０７
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　パミス（φ1〜2mm）少量、炭化粒（φ2〜3mm）微量
第２層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ3〜8mm）微量、炭化粒（φ1〜3mm）微量
第３層　黒色土（10YR2/1）　ロームブロック（φ16〜19mm）微量

第13図　溝状遺構（３）



ＳＤ−０８
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　パミス（φ2〜4mm）少量、炭化粒（φ2〜5mm）少量
第２層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ5〜10mm）多量、炭化粒（φ2〜3mm）微量

ＳＤ−１１
第１層　灰黄褐色土（10YR4/2）　炭化粒（φ1〜2mm）微量
第２層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ1〜2mm）少量、炭化粒（φ1〜2mm）微量

ＳＤ−１０
第１層　黒色土（10YR1.7/1）　ローム粒（φ1〜5mm）微量
第２層　黒色土（10YR1.7/1）　ローム粒（φ1〜5mm）少量、ロームブロック（φ10〜20mm）中量
第３層　黒色土（10YR2/1）　ローム粒（φ1〜5mm）少量
第４層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1〜5mm）少量、暗褐色土（10YR3/3）少量混在

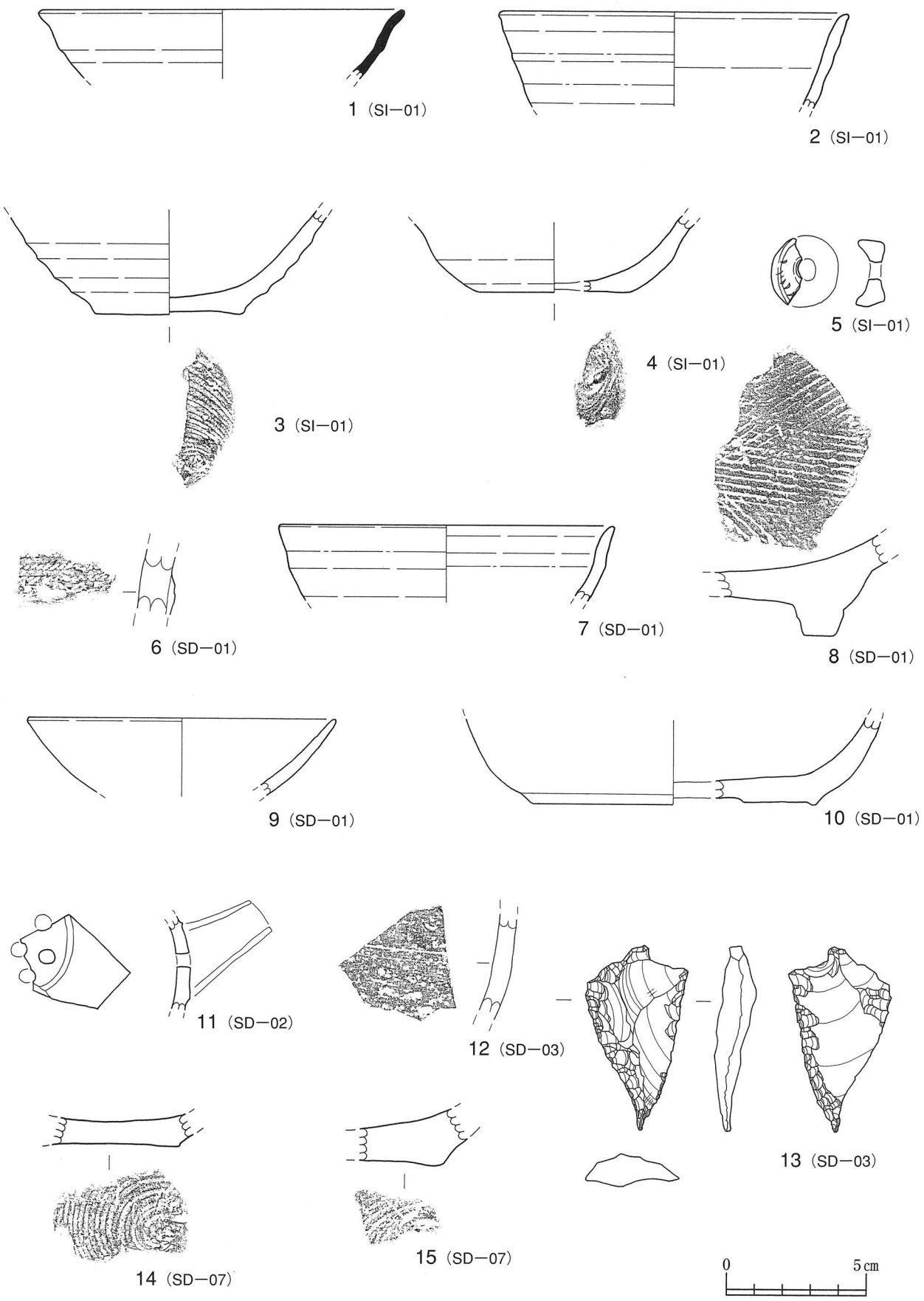
第14図　溝状遺構（４）

第５節　遺構外出土遺物

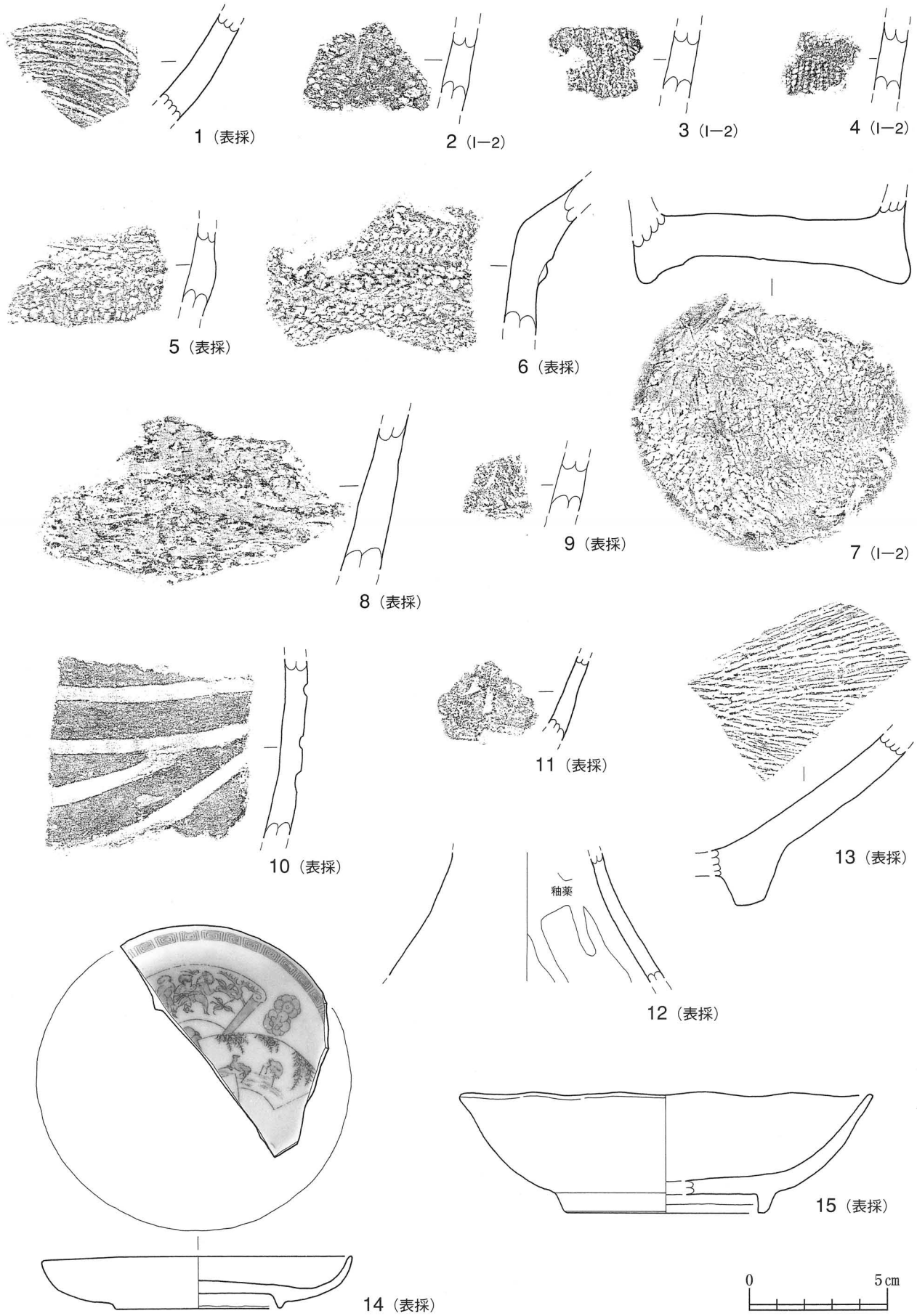
遺構外出土および調査区周辺から表採された遺物は、調査面積の割に少なく、図示できた資料は縄文土器10点（第16図１～10）、土師器１点（第16図11）、陶磁器４点（第16図12～15）であった。第16図１は縄文早期の尖底土器であり、尖底に近い胴部下半の資料であろう。外面には幅の狭い貝殻条痕文が観察され、内面は黒色を呈す。胎土に繊維混入は確認されず、おおよそ早期中葉の白浜・小舟波平式～吹切沢式土器に類するものと思われる。第16図２～８は縄文時代前期末葉（円筒下層ｄ式）の土器であり、ほとんどが円筒形を呈する深鉢形土器の口縁部・胴部資料であろう。単軸絡条体およびＬＲ斜縄文などが施文される。第16図７のみは、深鉢形土器の底部資料であり、底部中央部が１㎝ほどくぼむ上げ底状を呈する。底部にも胴部と同じＲＬＲ縄文が施文されている。縄文前期の土器は、すべて胎土に繊維が混入される。また、胎土中に観察される海綿骨針も比較的多量であるように感じる。海綿骨針は、本遺跡の占地する前田野目台地（前田野目層）に由来するものであり、当地で製作されたことが証左されよう。第16図９・10は縄文時代後期前葉（十腰内Ⅰ式）の資料と思われる。第16図９は細い沈線が格子目状に施文される土器であり、第16図10は幅広の沈線が横位・斜位に施文される胴部資料である。

第16図11は土師器甕の胴部資料であり、内外面ともにナデ調整が観察される。第16図12～15は近世～近代の陶磁器である。調査区に隣接する松枝町内会共同墓地に関わる遺物であろうと推定され、同様の出土傾向は平成12年度調査（青森県埋蔵文化財調査センター）においても確認されている。第16図12は細身の磁器徳利と思われ、内面には上部から流れ込んだ釉薬と素焼きの部分の区別がある。第16図13は削り出し高台を持つ肥前Ⅳ期（18世紀前半）の擂鉢、第16図14・15はともに銅版印刷染付の磁器小皿・小鉢であり、第16図15は酸化コバルト（青色）の鮮やかな発色が特徴的である。なお、第16図１～４・７・11は、調査区内からの出土であるが、第16図５・６・８～10・12～15は、調査区周辺（リンゴ果樹園）からの表採資料である。詳細は観察表（第３表）にまとめた。

（野坂　知広）



第15図　遺構内出土遺物



第16図　遺構外出土遺物

第２表　遺構内出土遺物観察一覧

図版番号	器　種	出土位置	計測値（cm）			外　面	内　面	底　部	時　期	備　考
			口径	底径	器高					
第15図１	須恵器坏	SI－01	12.8	—	—	ロクロ	ロクロ	—	平安時代（10世紀前半）	
第15図２	土師器坏	SI－01	12.4	—	—	ロクロ	ロクロ	—	平安時代（10世紀前半）	
第15図３	土師器坏	SI－01	—	5.2	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右）	平安時代（10世紀前半）	海綿骨針含む
第15図４	土師器坏	SI－01	—	5.4	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右）	平安時代（10世紀前半）	海綿骨針含む
第15図７	土師器坏	SD－01	11.9	—	—	ロクロ	ロクロ	—	平安時代（10世紀前半）	
第15図８	擂　鉢	SD－01	—	—	—	—	擂り目	—	近世・近代	肥前？
第15図９	磁器小鉢	SD－01	10.9	—	—	印刷染付	—	—	近現代	
第15図10	磁器皿	SD－01	—	10.1	—	青磁釉	染付	—	近世・近代	
第15図11	陶器土瓶	SD－02	—	—	—	施釉	無釉	—	近現代	汽車土瓶？
第15図12	土師器甕	SD－03	—	—	—	ロクロナデ	ロクロ	—	平安時代（10世紀前半）	
第15図14	土師器坏	SD－07	—	—	—	—	—	回転糸切（右）	平安時代（10世紀前半）	海綿骨針含む
第15図15	土師器甕	SD－07	—	—	—	—	—	回転糸切（右）	平安時代（10世紀前半）	海綿骨針含む

図版番号	種　別	出土位置	詳　細	時　期	備　考
第15図５	土製耳飾	SI－01	欠損、推定径2.5cm、最大厚1.0cm、推定孔径0.7cm、重量２ｇ、滑車形	縄文時代	内面に爪痕
第15図６	縄文土器	SD－01	深鉢、口縁部：ＬＲ押圧、隆帯	前期末葉	繊維混入、海綿骨針含む
第15図13	縦型石匙	SD－03	最大長6.1cm、最大幅3.6cm、最大厚1.2cm、重量18.0ｇ、珪質頁岩	縄文時代	

第３表　遺構外出土遺物観察一覧

図版番号	器　種	出土位置	詳　細	時　期	備　考
第16図１	縄文土器	表採	深鉢、胴部：貝殻条痕文	早期中葉	尖底土器
第16図２	縄文土器	I－２	深鉢、胴部：ＬＲ	前期末葉	繊維混入、海綿骨針含む
第16図３	縄文土器	I－２	深鉢、胴部：単軸絡条体第１類	前期末葉	繊維混入、海綿骨針含む
第16図４	縄文土器	I－２	深鉢、胴部：単軸絡条体第１類	前期末葉	繊維混入
第16図５	縄文土器	表採	深鉢、口縁部：単軸絡条体第５類	前期中葉	繊維混入、海綿骨針含む
第16図６	縄文土器	表採	深鉢、口縁部：ＬＲ押圧、隆帯、胴部：ＬＲ	前期末葉	繊維混入、海綿骨針含む
第16図７	縄文土器	I－２	深鉢、胴部：ＲＬＲ、底部：ＲＬＲ	前期末葉	繊維混入、海綿骨針含む
第16図８	縄文土器	表採	深鉢、胴部：原体不明	前期末葉	繊維混入
第16図９	縄文土器	表採	深鉢、胴部：沈線（格子目文）	後期前葉	海綿骨針含む
第16図10	縄文土器	表採	深鉢、胴部：沈線	後期前葉	海綿骨針含む

図版番号	器　種	出土位置	計測値（cm）			外　面	内　面	底　部	時　期	備　考
			口径	底径	器高					
第16図11	土師器甕	表採	—	—	—	ナ　デ	ナ　デ	—	平安時代（10世紀前半）	
第16図12	磁器徳利	表採	—	—	—	染　付	無　釉	—	近世・近代	
第16図13	擂　鉢	表採	—	—	—	—	擂り目	—	肥前Ⅳ期（18世紀前半）	削り出し高台
第16図14	磁器小皿	表採	11	6	2	染　付	印刷染付	—	近　代	
第16図15	磁器小鉢	表採	—	7.2	4.3	印刷染付	印刷染付	—	近　代	

ま と め

長溜池遺跡は、青森市浪岡大字松枝字野尻および女鹿沢字平野地内に所在している。野尻本線道路整備事業に併い、平成20年９月１日～10月15日および平成21年７月30日～９月11日の日程で工事予定地を対象に発掘調査を実施した（626㎡）。調査の結果、竪穴遺構２基、土坑13基、小ピット７基、溝状遺構11条を検出したほか、ダンボール箱換算で約３分の１箱分の土器・石器・陶磁器等が出土した。調査区全体は南北に細長く、緩やかに南傾する微高丘陵緩斜面上に占地する。

竪穴遺構は２基検出された。SI－01は、出土遺物の主体が平安時代の土師器であり、おそらく９世紀末葉以降、10世紀前半の年代が考えられる。底面から土坑１基とピット１基を検出したが、その性格は不明である。カマド等、住居跡の痕跡は確認できなかった。SI－02は、平面が不整楕円形を呈し、カマド等、住居跡の痕跡は確認されなかった。

土坑は13基検出されたが、他遺構との切り合い関係からおおむね平安時代（10世紀前半）に帰属するものと思われる。その性格は判然としないが、深いものと浅いものの相違があり、SK－03・04などは竪穴遺構に類する可能性もある。土坑はSK－10・11・13などを含めて溝状遺構との重複が多く、規模や帰属時期など不明瞭な部分が多い。

小ピットは７基検出されたが、配列に規格性を窺うことはできず、帰属時期も不明である。概して他の遺構を切るように構築されることが多い。

溝状遺構は11条検出された。帰属時期は判然としないが、他遺構との切り合い関係からはおおむね平安時代（10世紀前半）の遺構と思われる。特に、SD－01覆土上位からはB-Tm火山灰がまとまって検出され、その出土状況は平成12年度調査（青森県埋蔵文化財調査センター）における円形周溝遺構のものと似通っている。本溝状遺構の廃絶後、一定期間が経過してから火山灰が降下・堆積したものと考えられ、帰属時期は９世紀末葉以降、10世紀前半と理解できよう。また、SD－01・02・09・11は中間で断絶する部分もあるが、配置や主軸方向などに共通性が強く、同一遺構の可能性が高い。SD－03は幅広で僅かに曲線的な形状を呈し、外周溝を伴う住居跡とも考えられるが、詳細は不明である。SD－07～10なども主軸方向や規模などに近似する傾向が窺える。SD－03の南側壁面からは３基のピットが検出されており、柵列あるいは何らかの建物跡であるかもしれない。SD－50・06は２条並行する溝跡と考えられ、排水溝のみでなく、集落を区画していた可能性も考えられる。また、前述のSD－01・02・09・11も２条並行の溝跡であった可能性がある。

長溜池遺跡における本調査区は、やや傾斜のある立地条件なども考慮すると平安集落の縁辺部にあたるものと思われる。遺構同士の切り合い関係は曖昧であり、その帰属時期も判然としないものが多い。また、調査区周辺からは、縄文時代前期末葉（円筒下層ｄ式期）を主体とする土器片が採集されており、丘陵平坦部には縄文前期の遺構・遺物が埋蔵されていると考えられる。

（担当者一同）

引用・参考文献

青　　森　　県　2005　『青森県史』資料編考古３（弥生～古代）
青森県教育委員会　1987　『山本遺跡発掘調査報告書』
青森県教育委員会　1994　『山元（３）遺跡』
青森県教育委員会　1995 a　『山元（２）遺跡』
青森県教育委員会　1995 b　『野尻（２）遺跡』
青森県教育委員会　1996 a　『野尻（２）遺跡Ⅱ・野尻（３）遺跡』
青森県教育委員会　1996 b　『野尻（４）遺跡』
青森県教育委員会　1997　『高屋敷館遺跡発掘調査概報』
青森県教育委員会　1998 a　『野尻（１）遺跡Ⅰ』
青森県教育委員会　1998 b　『高屋敷館遺跡』
青森県教育委員会　1999　『野尻（１）遺跡Ⅱ』
青森県教育委員会　2000　『野尻（１）遺跡Ⅲ』
青森県教育委員会　2001　『長溜池遺跡』
青森県教育委員会　2002　『野尻（１）遺跡Ⅳ』
青森県教育委員会　2003 a　『野尻（１）遺跡Ⅴ』
青森県教育委員会　2003 b　『宮元遺跡』
青森県教育委員会　2004　『野尻（１）遺跡Ⅵ・野尻（２）遺跡Ⅲ』
青森県教育委員会　2005 a　『高屋敷館遺跡Ⅲ』
青森県教育委員会　2005 b　『山元（１）遺跡』
青森県教育委員会　2006　『野尻（３）遺跡Ⅱ』
青森県教育委員会　2008　『上野遺跡』
青　　森　　市　2006　『新青森市史』資料編１（考古）
青森市教育委員会　2006　『国史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書Ⅱ』
青森市教育委員会　2007　『市内遺跡発掘調査報告書15』
青森市教育委員会　2008 a　『野尻（４）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2008 b　『市内遺跡発掘調査報告書16』
青森市教育委員会　2008 c　『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
青森市教育委員会　2009　『市内遺跡発掘調査報告書17』
五所川原市教育委員会　1998　『犬走須恵器窯跡発掘調査報告書』
五所川原市教育委員会　2003　『五所川原須恵器窯跡群』
浪　　岡　　町　2000　『浪岡町史』第１巻
浪　　岡　　町　2004　『浪岡町史』第２巻
浪岡町教育委員会　1990　『大沼遺跡発掘調査報告書』
浪岡町教育委員会　2004　『野尻（４）遺跡』
浪岡町教育委員会　2005　「史跡高屋敷館遺跡発掘調査報告書」『平成16年度浪岡町文化財紀要Ⅴ』
三　浦　圭　介　1992　「青森県における古代の土器様相」『北日本における律令期の土器様相』第18回古代城柵官衙遺跡検討会

写　真　図　版

平成20年度調査区全景（北→）

平成20年度調査区全景（南→）

写真１　検出遺構（１）

平成20年度調査区北側近景（南→）

平成20年度調査区南側近景（北→）

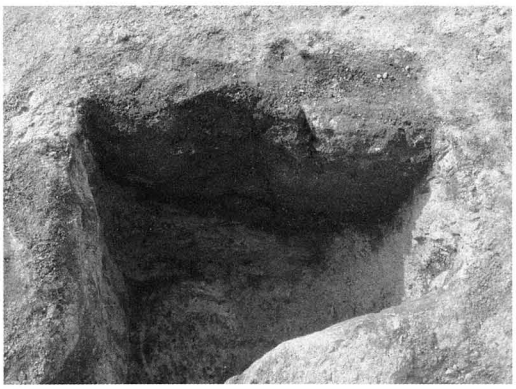
写真２　検出遺構（２）

SI－01東西セクション（南→）

SI－01南北セクション（西→）

SI－01完掘（南西→）

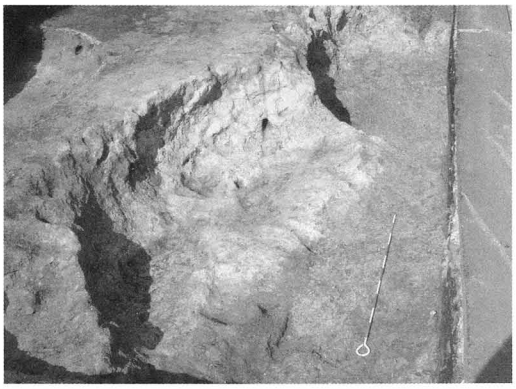
SI－01完掘（北西→）



SI－01内ピットセクション（東→）

SI－01内土坑セクション（北→）

SI－02東西セクション（南→）



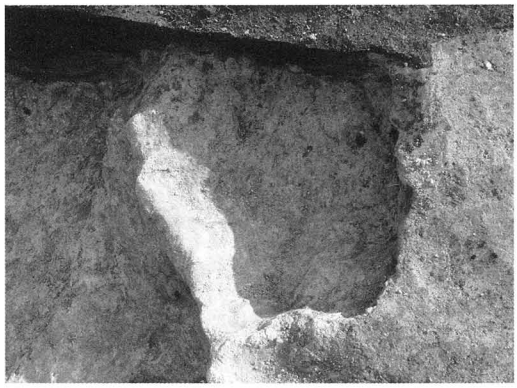
SI－02完掘（南→）

写真３　検出遺構（３）

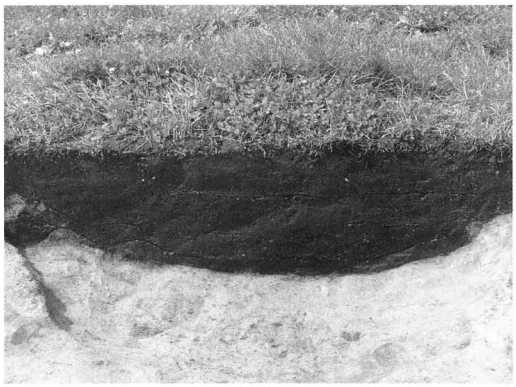
SK－03・04完掘セクション（西→）

SK－03・04完掘（奥はSI－02、北→）

SI－02・SK－05・SD－02完掘（北→）



SK－05完掘（北→）



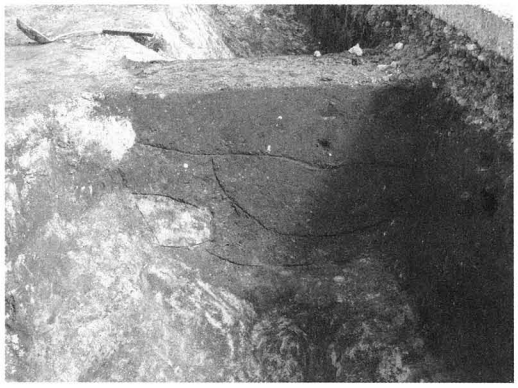
SK－02セクション（東→）

SK－02完掘（東→）

SK－01・SD－01セクション（北→）

SD－01完掘（南→）

写真４　検出遺構（４）



SD－02セクション（南→）

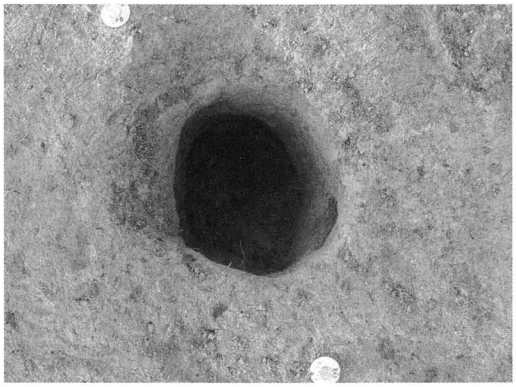
SD－03セクション（東→）

SD－03完掘（南東→）

SD－05・06セクション（東→）

SD－05・06完掘（西→）

SP－03完掘（南→）



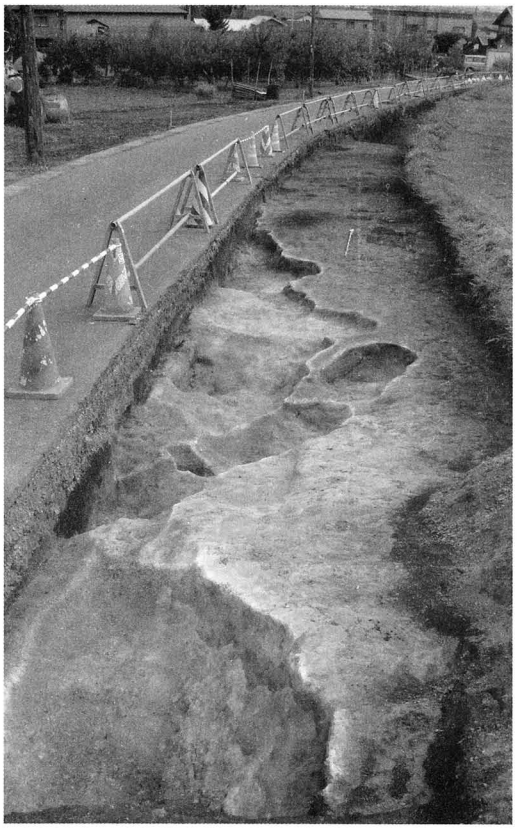
SP－04完掘（南→）

写真５　検出遺構（５）

平成21年度調査区全景（北→）

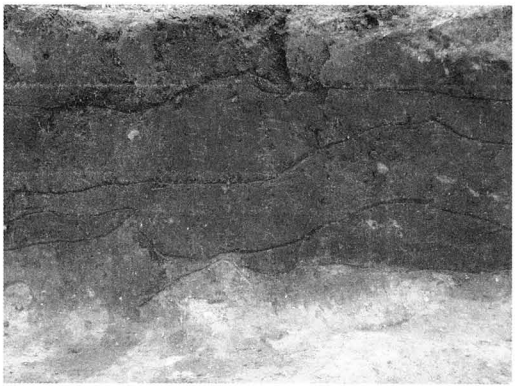
平成21年度調査区全景（南→）

写真６　検出遺構（６）



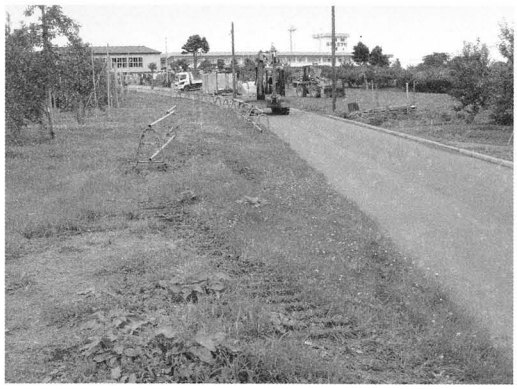
平成21年度調査区北側近景（北→）

平成21年度調査区南側近景（南→）



平成20年度基本層序（東→）

平成21年度基本層序（東→）



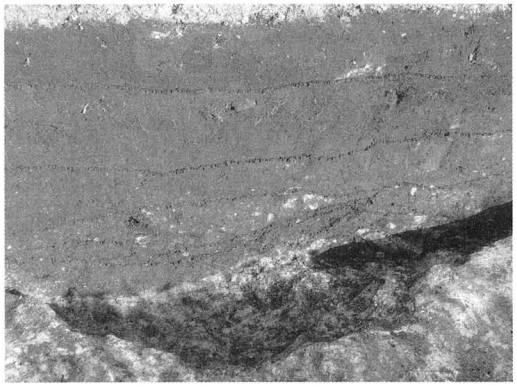
平成21年度調査前風景（南→）

SD－01覆土B－Tm堆積状況（西→）

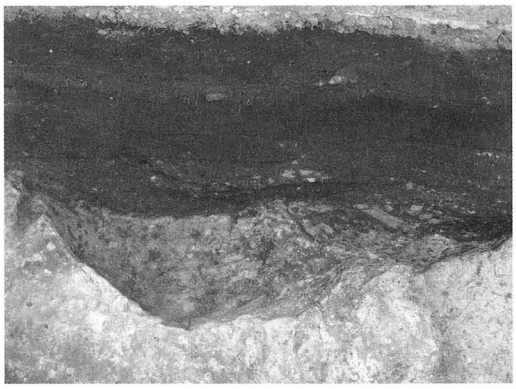
写真７　検出遺構（７）

SK－06セクション（左はSP－05、西→）

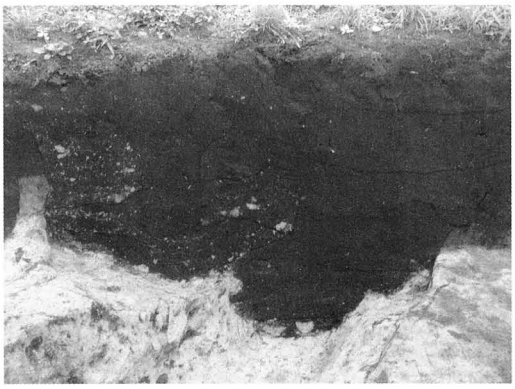
SK－06・SP－05完掘（西→）



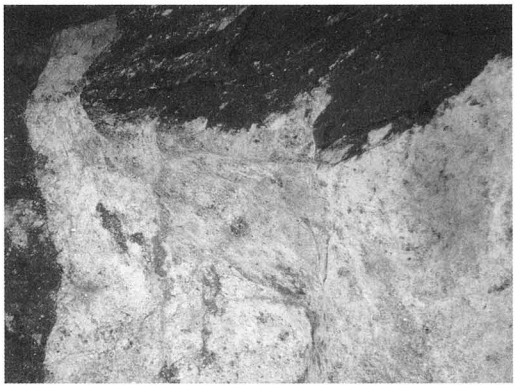
SK－07・08セクション（左がSK－07、西→）



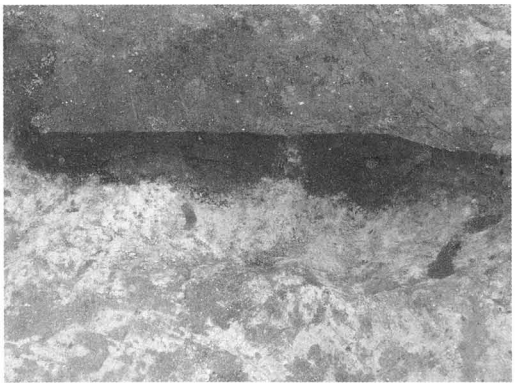
SK－07・08完掘（左がSK－07、西→）



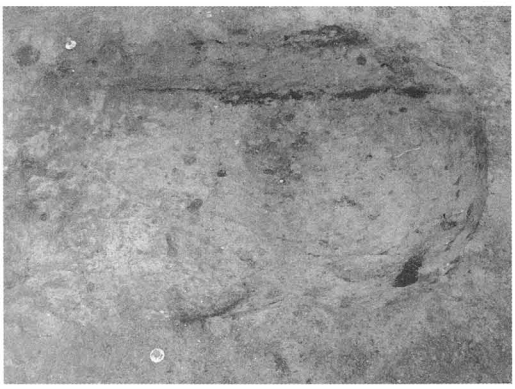
SK－09・SD－07セクション（左がSK－09、東→）



SK－09完掘（左がSK－09、東→）



SK－12セクション（北→）

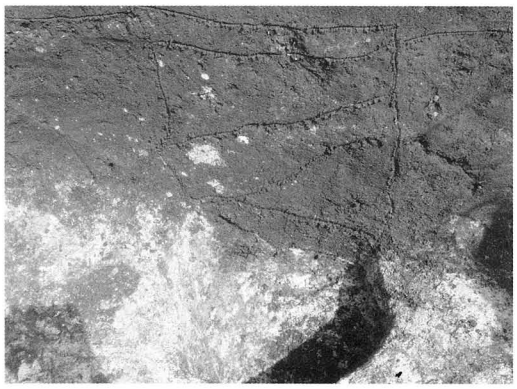


SK－12完掘（北→）

写真８　検出遺構（８）

SK－10・11・SD－02・09完掘（北西→）

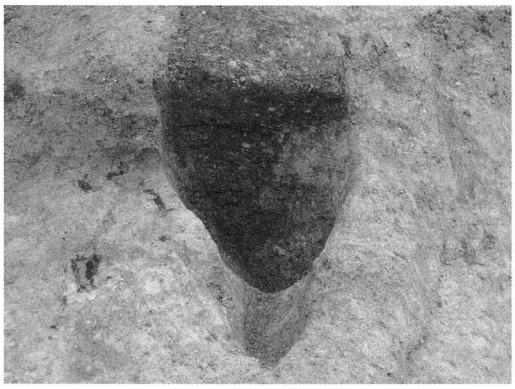
SK－13・SD－02・11完掘（南→）



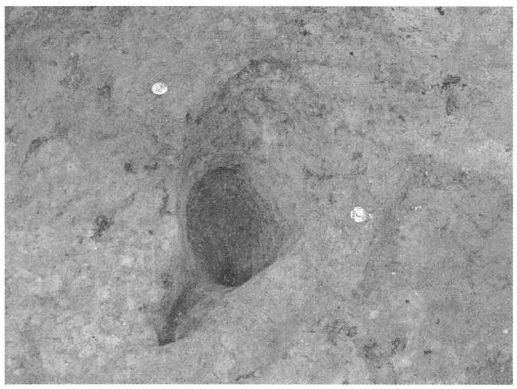
SP－05セクション（西→）

SP－06セクション（西→）

SP－06完掘（西→）



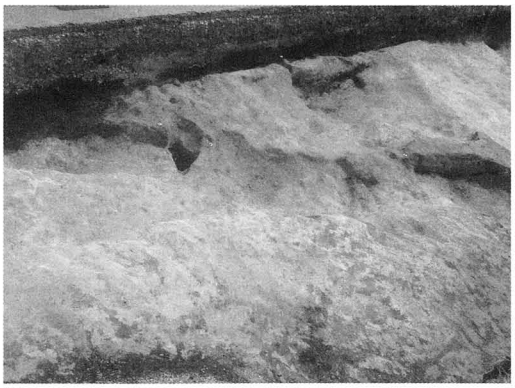
SP－07セクション（北→）



SP－07完掘（北西→）

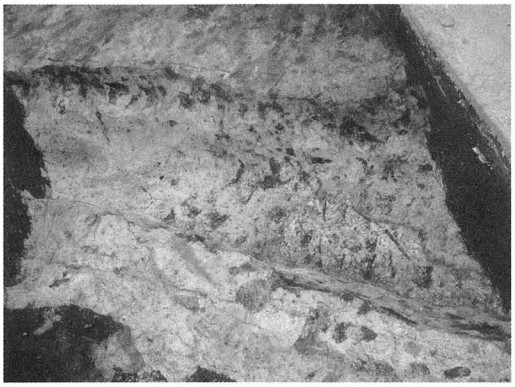
SK－13・SD－02・11セクション（南→）

写真９　検出遺構（９）

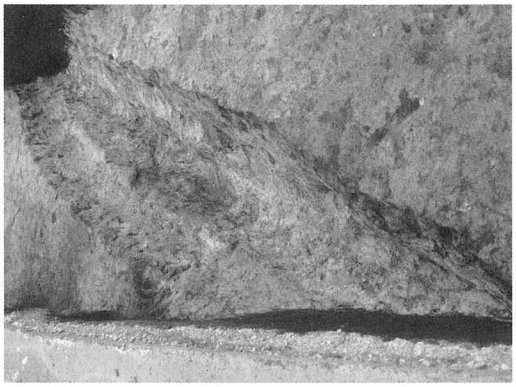


SK－12・SD－10完掘（北西→）

SK－12・SD－10完掘（南西→）

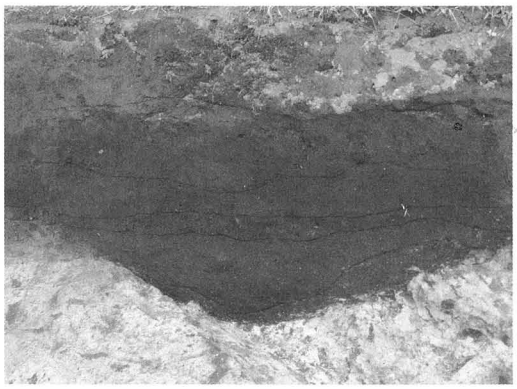


SD－07完掘（南西→）

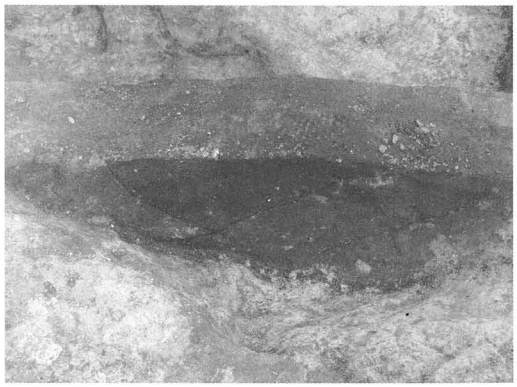


SD－08完掘（東→）

SD－09完掘（南→）

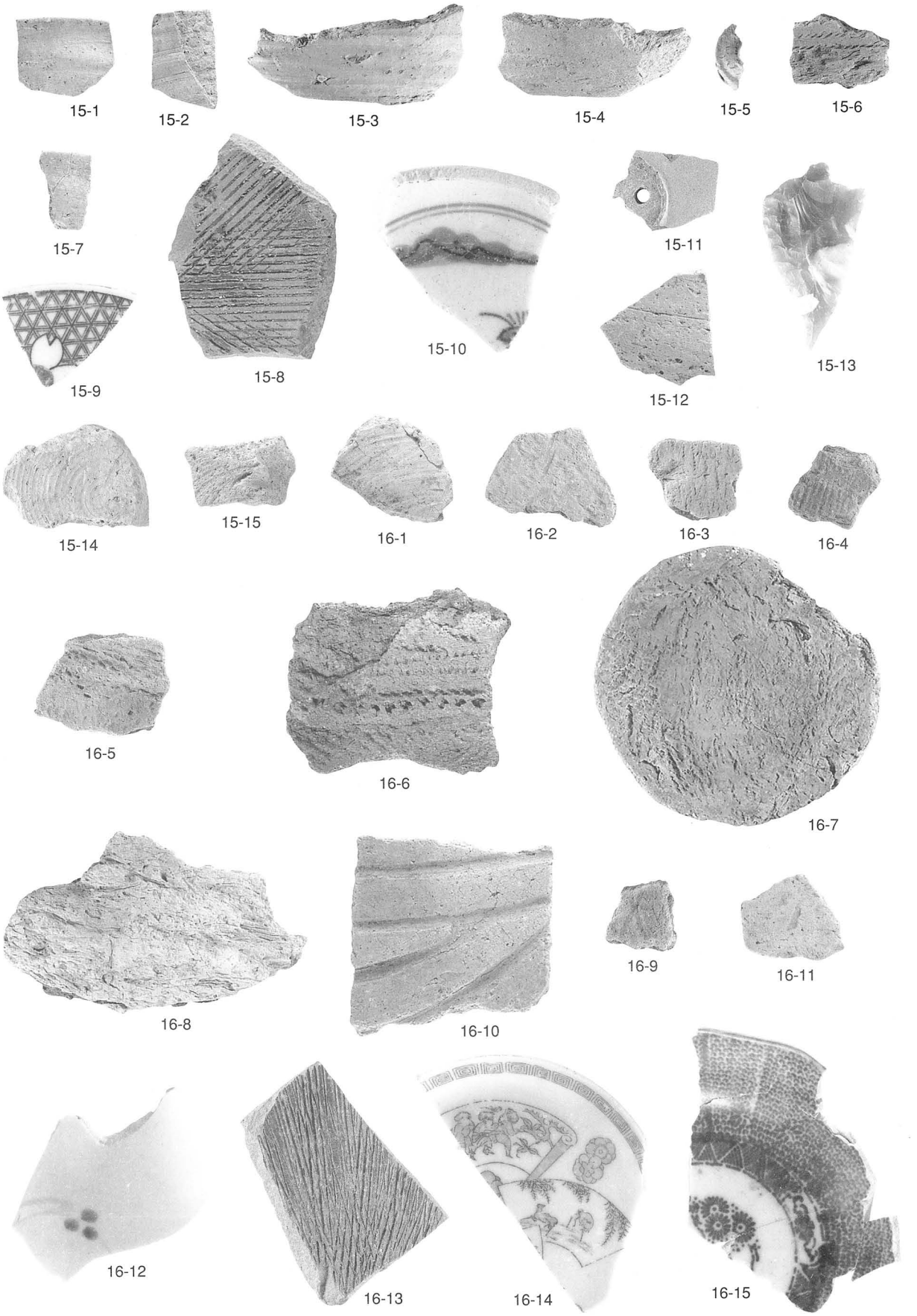


SD－08セクション（東→）



SD－10セクション（西→）

写真10　検出遺構（10）



(S=1/2)

写真11　出土遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ながためいけいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書 名	長溜池遺跡発掘調査報告書
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第104集
編 著 者 名	設楽政健、野坂知広
編 集 機 関	青森市教育委員会
所 在 地	〒038-8505　青森県青森市柳川二丁目１番１号　TEL017－761－4796
発 行 年 月 日	西暦2010年３月26日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
長溜池遺跡（ながためいけいせき）	青森県青森市（あおもりけんあおもりし） 浪岡大字松枝（なみおかおおあざまつえ） 字野尻（あざのじり）ほか	02201	201-341	40° 46′ 52″	140° 47′ 22″	20080901 ～ 20081015 20090730 ～ 20090911	626㎡	道路改良工事に先立つ事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長溜池遺跡	散布地	縄文時代 平安時代	竪穴遺構　2基 土坑　13基 小ピット　7基 溝状遺構　11条	縄文土器 石器 土師器 陶磁器	

要 約	1．長溜池遺跡は、浪岡川・大釈迦川右岸の台地（微高丘陵）上、標高30～40m内外の地点に位置している。 2．発掘調査は道路改良工事予定地626㎡を対象に実施した。 3．調査の結果、竪穴遺構２基・土坑13基・小ピット７基・溝状遺構11条を検出し、多くは平安時代（10世紀代）に属するものと思われる。

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』
〃	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971	『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』
		1979	『蛍沢遺跡』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983	『山野峠遺跡』
		1985	『長森遺跡発掘調査報告書』
		1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
		1987	『横内城跡発掘調査報告書』
		1988	『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			
〃	第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第26集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第32集	1997	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第33集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃	第34集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第36集	1998	『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第44集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第46集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃	第47集	1999	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	第48集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』
〃	第49集	2000	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第51集	2000	『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第52集	2000	『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
〃	第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第54集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
〃	第56集	2001	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃	第57集	2001	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第58集	2001	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第59集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
〃	第61集	2002	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第62集	2002	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第63集	2002	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃	第64集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第65集	2003	『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
〃	第66集	2003	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第67集	2003	『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第68集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
〃	第69集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書11』
〃	第70集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
〃	第71集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第72集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第73集	2004	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第74集	2004	『市内遺跡発掘調査報告書12』
〃	第75集	2004	『江渡遺跡発掘調査報告書』
〃	第76集	2005	『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第77集	2005	『赤坂遺跡発掘調査報告書』
〃	第78集	2005	『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
〃	第79集	2005	『市内遺跡発掘調査報告書13』
〃	第80集	2005	『合子沢松森(2) 遺跡発掘調査概報』
〃	第81集	2005	『石江遺跡群発掘調査概報』
〃	第82集	2006	『三内沢部 (3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第83集	2006	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第84集	2006	『新町野遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第85集	2006	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
〃	第86集	2006	『市内遺跡発掘調査報告書14』
〃	第87集	2006	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第88集	2006	『史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書Ⅱ』
〃	第89集	2006	『篠原遺跡発掘調査報告書』
〃	第90集	2007	『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第91集	2007	『市内遺跡発掘調査報告書15』
〃	第92集	2007	『新町野遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第93集	2007	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第94集	2007	『石江遺跡群発掘調査報告書』
〃	第95集	2008	『野尻(4)遺跡発掘調査報告書』
〃	第96集	2008	『葛野遺跡群発掘調査報告書』
〃	第97集	2008	『市内遺跡発掘調査報告書16』
〃	第98集	2008	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第99集	2009	『市内遺跡発掘調査報告書17』
〃	第100集	2009	『阿部野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第101集	2009	『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第102集	2009	『細越館遺跡発掘調査報告書』
〃	第103集	2010	『市内遺跡発掘調査報告書18』
〃	第104集	2010	『長溜池遺跡発掘調査報告書』
〃	第105集	2010	『葛野(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第106集	2010	『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』

青森市埋蔵文化財調査報告書　第104集

長溜池遺跡発掘調査報告書

発行年月日　平成22年３月26日

発　　行　青森市教育委員会
〒038－8505　青森市柳川二丁目１番１号
TEL　017－761－4796

印　　刷　東北印刷工業株式会社
〒030－0902　青森市合浦一丁目２番12号
TEL　017－742－2221